

令和3年度

青森県すこやか福祉事業団事業報告書

社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団
(令和4年3月31日現在)

目 次

第1	事務局	1
第2	障害児入所施設八甲学園	14
第3	養護老人ホーム安生園	29
第4	障害者総合福祉センターなつどまり	37
第5	青森県長寿社会振興センター	60
第6	青森県発達障害者支援センター	63
第7	ライフサポートあおば	66
第8	就労サポートセンターさつき	75
第9	特別養護老人ホームすこやか苑	80
第10	就労サポートセンターはくちょう	86

第1 事務局（法人本部）

I 事務局（総務課・キャリア支援課）

1 概況

令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症に影響された1年であり、さらには、年度末に国際情勢の緊張から生活用品、食料品、燃料費等の増額が見込まれ、必要経費の支出が増加した1年だった。

また、令和3年度に実施された報酬改定により、各サービスの収入単価や加算要件が変更となり、収入面でも今後の経営方針を検討せざるを得ない状況であった。

職員の給与面では、国の「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」（令和3年11月19日閣議決定）に基づき、福祉・介護職員を対象に、収入を3%程度（月額9,000円相当）引き上げるための措置が実施された。当事業団でも「処遇改善手当」、「特定処遇改善手当」に続き、令和4年2月から新たに「処遇改善臨時手当」を支給することとし、職員の給与面をバックアップした。

福祉業界では人材不足が大きな課題となっているが、当事業団でもここ数年は人材確保が極めて困難な状況が続いた。そのため、人材の「確保」だけでなく、確保した人材の「育成」と「定着」についても重点目標に掲げ、様々な取組を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 事務局総務課

① 安定した経営基盤の強化

令和3年度の報酬改定により、各サービスの収入単価や加算要件が変更となり、今後の収支を鑑みながら経営方針を判断する状況となった。

その中で特に「放課後等デイサービス」の収入が大きく減少することとなり、これについては、法人内で「放課後等児童デイサービス事業検討会議」を開催し、関係する八甲学園、ライフサポートあおばの職員と今後の在り方について検討した。その結果、社会情勢と当該事業に対する国の動向を踏まえ、法人の放課後等デイサービスをライフサポートあおばに集約し、「デイサービスセンターはっこう」を令和3年度末に廃止することで、収入減を最小限に抑えることとした。

また、赤字が続いている八甲学園の相談支援事業についても、法人内で「相談支援事業検討会議」を開催し、適正な利用者数で収支のバランスをとりながら継続することとした。

人件費については、令和2年度比で約33,000千円の増だったが、新給与制度や同一労働同一賃金制度開始の影響等があった令和2年度の前年度比増（約79,000千円）より増額幅は減少した。今後は新給与制度の効果により数年間に渡って人件費の増額傾向は減少し、旧給与制度と比較して抑制された人件費になる見込みであるため、今後も人件費の動向を注意深く見守る必要がある。

これらの結果、令和3年度の法人全体の収支は約31,000千円となり、法人全体で30,000千円としていた収支目標を達成した。また、長寿社会振興センターで保有していた事業積立金の一部について、“高齢者の福祉のため”という目的に則り、法人の所有する高齢者施設の将来的な建て替え等を考慮して、法人本部に移行し「施設整備等積立金」として計上した。

② 新しい人事考課（評価）制度の体制作り

令和3年度から、「能力評価基準書」を基に、全正職員を被評価対象とする、新たな人事評価制度を開始した。

各職員が、階級ごとに求められる業務内容を「能力評価基準書」を基に把握、自己評価し、上席者の評価や面談とともに自分の業務をフィードバックして、成長や改善を促し、人材育成に繋げる体制を整えた。

また、法人全体で評価者が公正・公平に評価できるよう、外部コンサル機関に講師依頼し「評価者研修」を3回実施した。併せて評価される職員も人事評価の仕組みを理解できるよう、「被評価者研修」（被評価者全員対象とし、外部コンサル機関に講師依頼して、DVDで随時視聴とした）を実施し、人事評価制度の確立を目指した。

③ 地域職給与制度の確立

令和2年度に新給与制度を施行し、さらに多様な働き方に対応できるよう、令和3年度から新たに地域職給与制度について開始した。

地域職給与制度は、総合職とは異なる給料表を適用し、希望した職員のうち選考によって決定された職員は希望地域のみでの異動となり、職員のライフスタイルに沿った地域での勤務を可能とするものである。令和3年度は子どもの送迎や家族の介護等の理由により7人が制度の対象となり、また、令和4年度に向けて募集を行ったところ、新たに2人が選考された。

現在は、異動が制限される職員がいることによる弊害もなく、今後も、法人全体の人事との調整を図りながら、職員の多様な働き方に沿う地域職給与制度の体制を続けていく。

(2) 事務局キャリア支援課

① 人材確保

就職説明会は、当事業団に就職を希望する学生や求職者に対して直接情報発信をする機会であるが、新型コロナウイルスの感染拡大を機にオンライン形式が主流となった。令和3年度は、自主的に開催した説明会も含め16回の会社説明会に参加したが、このうち対面式はわずか4回だけで、残りはオンライン形式だった。このようにオンライン形式が主流となったことにより、1回あたりの説明対象者数も以前(令和元年度1回あたり平均9.3人、令和2年度は同6.1人)より減少し、令和3年度は平均5人だった。今後は、少ない説明機会、限られた人数に対して、いかに魅力を発信していくかが課題である。

採用試験の実施状況について、令和3年度は一般公募Ⅰで18人の応募者があり、合格を辞退した1人を除く11人が令和4年度採用職員として確保することができた。一方で、高等学校新卒者を対象とした一般公募Ⅱの応募者はなかった。持続可能な組織づくりのためには若い人材の確保が必要であるため、今後も引き続き受験者確保に努める。

【一般公募試験種別の説明】

種 別	内 容
一般公募Ⅰ	令和4年度採用予定の、大卒・短大卒・専門学校卒・高等学校既卒者対象の採用試験。
一般公募Ⅱ	令和4年度採用予定の、高等学校新卒者対象の採用試験。
一般公募Ⅲ	令和3年度中に採用する欠員補充のための正職員採用試験。

■一般公募試験の実施状況

(単位：人)

種 別	区 分	応募者数	合格者数	辞退者数	備 考
一般公募Ⅰ	一次募集	5	2	0	R3. 6/12 実施
	二次募集	1	1	0	R3. 7/24 実施
	三次募集	6	4	0	R3. 10/30 実施
	四次募集	6	5	1	R4. 2/4 実施
一般公募Ⅱ	—	0	0	0	応募者なし
一般公募Ⅰ・Ⅱ合計①		18	12	1	令和4年度採用者は11人
一般公募Ⅲ	—	1	1	0	八甲学園栄養士(R3. 4/12 実施)
		1	0	0	しらかば寮支援員(R3. 4/12 実施)
		1	0	0	すこやか苑支援員(R3. 8/5 実施)
		1	0	0	しらかば寮支援員(R3. 9/14 実施)
		1	0	0	長寿センター事務員(R3. 9/14 実施)
		1	1	0	すこやか苑看護師(R3. 9/14 実施)
		1	1	0	さつき寮支援員(R4. 2/10 実施)※
		1	1	0	あおば支援員(R4. 3/10 実施)
一般公募Ⅲ合計②		8	4	0	
総計(①+②)		26	16	1	

※配属先が八甲学園に変更。

■内部登用試験の実施状況

(単位：人)

試験種別	応募者数	合格者数	備 考
内部登用	7	3	R3. 11/25、11/29 実施

② 人材育成

「青森県すこやか福祉事業団人材育成計画」に基づき、新任職員研修、階層別研修、専門分野別研修など、カテゴリーに応じた研修を計画的に開催し、職員の資質向上に努めた。また、新任職員に対しては「新任職員育成研修プログラム」による人材育成を推進した。

令和3年度は、県民福祉プラザの大規模修繕に伴い研修会場の確保が大きな課題であったが、近隣の公共施設の利用のほか、各所属を会場とした研修を増やしたり、オンライン形式での研修を開催したりするなど、新たな取組を通して職員の研修参加機会の増加につなげた。

研修実績については、「令和3年度法人内研修実施状況」(P9・10)参照。

③ 人材定着

新採用者については、将来の組織運営を担う人材として長く働いてもらいたいところだが、ここ数年4月1日付新採用者の年度内離職者が続き、平成30年度は2人、令和元年度は6人の新採用者が離職した。

こうした離職は事業運営上非常に大きな影響を及ぼすことから、先輩職員が新任職員の育成やフォローを行う「エルダー制度」により、新任職員に対する業務面や心理面でのサポートの強化を図った。

また、キャリアコンサルタントによる「キャリア面談」を実施し、自身のキャリアの振り返りを行い、職員一人ひとりが仕事に対してやりがいを感じ、目標をもつ

て仕事に臨むことができるよう支援した。令和3年度は、102人の職員がキャリア面談を受けた。

こうした取組を通して、令和2年度は「新任職員の離職者0人」の目標を達成することができたため、令和3年度も引き続き「新任職員の離職者0人」を目標に掲げた。しかし、令和3年度は新採用職員2人が健康上の理由や家庭の事情により退職したため、目標達成はできなかった。

④ 職場環境改善

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、ICT（情報通信技術）を活用した業務が広がっている。これについては、職場環境改善委員会において、これまで法人内で導入した事例や活用状況、運用上の課題などについて議論し、今後、法人内で速やかな情報共有を図ることを目的に、グループウェアの導入に向けて検討することとなった。

また、当事業団では、様々な悩みを持つ職員が相談しやすくする仕組みとして総合的な相談体制である「職場の保健室」制度を整備しているが、令和3年度も職場の人間関係や職場環境に関する相談が複数件寄せられた。相談を通して、職員の悩みや職場の課題を把握することができたため、早期に問題解決や改善につなげることができた。

3 職員の状況

職名	事務局長 (就労さつき所長兼務)	次長 (キャリア支援課長兼務)	総務課長	総務課 事務員	キャリア支援課 事務員	計(人)
職員数	1	1	1	3	2	8

※理事長、専務理事を除く。

4 事業の実施状況

(1) 評議員会

事業団定款第9条～14条の規定に基づき、次のとおり開催した。

回及び開催時期	内 容
第9回評議員会 令和3年6月18日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：評議員6人、理事6人、その他8人 ③報告事項 報告第1号：令和2年度事業報告の件 ④議決事項 議案第1号：令和2年度計算書類及び財産目録の承認の件 議案第2号：理事5名の選任の件 議案第3号：監事2名の選任の件
第10回評議員会 令和3年12月22日	①場 所：県民福祉プラザ2階「多目的室2B」 ②出席者：評議員6人、理事3人、その他3人 ③議決事項 議案第1号：定款の一部改正の承認の件

(2) 理事会

事業団定款第23条～27条の規定に基づき、次のとおり開催した。

回及び開催時期	内 容
第 22 回理事会 令和 3 年 5 月 31 日	①場 所：県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 8 人 ③報告事項 報告第 1 号：令和 2 年度苦情等受付・解決状況 ④議決事項 議案第 1 号：令和 2 年度第 5 次補正予算（理事長専決分）（案） 議案第 2 号：令和 2 年度事業報告書（案） 議案第 3 号：令和 2 年度決算書（案） 議案第 4 号：令和 3 年度第 1 次補正予算（案） 議案第 5 号：人事評価実施要綱の制定（案） 議案第 6 号：理事の改選（案） 議案第 7 号：監事の改選（案） 議案第 8 号：評議員の改選（案） 議案第 9 号：第 2 回評議員選任・解任委員会の招集事項（案） 議案第 10 号：第 9 回評議員会の招集事項（案）
第 23 回理事会 令和 3 年 6 月 18 日	①場 所：県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 3 人 ③議決事項 議案第 1 号：理事長の選任について 議案第 2 号：令和 3 年度第 2 次補正予算（案）
第 24 回理事会 令和 3 年 8 月 26 日	①場 所：県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 4 人 ③議決事項 議案第 1 号：ライフサポートあおばにおける保育所等訪問支援事業の拡大について（案） 議案第 2 号：令和 3 年度第 3 次補正予算（案）
第 25 回理事会 令和 3 年 11 月 8 日	①場 所：県民福祉プラザ 4 階「中研修室」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 8 人 ③報告事項 報告第 1 号：世話人就業規則の一部改正について 報告第 2 号：非常勤ホームヘルパーの就業規則の一部改正について 報告第 3 号：青森圏域障害者就業・生活支援センター指定候補者募集に対する応募について ④議決事項 議案第 1 号：令和 3 年度第 4 次補正予算（案）
第 26 回理事会 令和 3 年 12 月 13 日	①場 所：県民福祉プラザ 2 階「多目的室 2 B」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 4 人 ③報告事項 報告第 1 号：青森圏域障害者就業・生活支援センター指定候補者募集に係る業務提案の審査結果について ④議決事項 議案第 1 号：定款の一部改正（案） 議案第 2 号：令和 3 年度第 5 次補正予算（案）

	議案第 3 号：第 10 回評議員会の招集事項（案）
第 27 回理事会 令和 4 年 3 月 11 日	①場 所：県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 1 人、その他 8 人 ③報告事項 報告第 1 号：令和 3 年度監査結果の報告 報告第 2 号：令和 3 年度福祉サービスの質の評価実績の報告 ④議決事項 議案第 1 号：令和 3 年度第 6 次補正予算（案） 議案第 2 号：年度開始前の契約準備に関する理事長専決について 議案第 3 号：令和 4 年度事業計画（案） 議案第 4 号：令和 4 年度当初予算（案） 議案第 5 号：職員就業規則の一部改正（案） 議案第 6 号：育児・介護休業等に関する規則の一部改正（案） 議案第 7 号：準職員就業規則の一部改正（案） 議案第 8 号：職員給与規程の一部改正（案） 議案第 9 号：経理規程の一部改正（案） 議案第 10 号：役員等賠償責任保険について 議案第 11 号：業務執行理事の選任（案） 議案第 12 号：施設長等人事（案）

(3) 各種監査・第三者評価

監査種別	実施日
①青森県すこやか福祉事業団監事事前監査	令和 3 年 4 月 26 日
②青森県すこやか福祉事業団監事監査	令和 3 年 5 月 10 日・11 日
③青森県すこやか福祉事業団内部監査 <ul style="list-style-type: none"> ・プラザ内事業所(事務局・プラザ管理室・長寿・発達) ・八甲学園 ・安生園 ・すこやか苑 ・なつどまり ・就労サポートセンターさつき ・ライフサポートセンターあおば ・就労サポートセンターはくちょう 	令和 3 年 10 月 4 日 令和 3 年 9 月 21 日 令和 3 年 10 月 8 日 ・11 月 17 日 令和 3 年 11 月 10 日 令和 3 年 9 月 22 日 ・10 月 5 日・26 日 令和 3 年 9 月 15 日 令和 3 年 10 月 18 日・22 日 令和 3 年 10 月 29 日
④青森県監査委員による指導監査 <ul style="list-style-type: none"> ・プラザ管理室 	令和 4 年 3 月(書面実施)
⑤青森県東青地域県民局監査指導課による指導監査 <ul style="list-style-type: none"> ・八甲学園(施設入所) 	令和 3 年 9 月 8 日

⑥青森市指導監査課による指導監査、実地指導 ・八甲学園 （相談あおば、生活介護、デイはっこう、就労B型） ・ライフサポートあおば（デイあおば） ・安生園 ・すこやか苑	令和3年10月12日・13日 令和3年10月15日 令和4年1月（書面実施） 令和4年1月（書面実施）
--	--

(4) 法人内会議・委員会

会議名	内 容
①所属長会議 （9回開催）	各所属と意思疎通を図り、既存事業の課題等の検証や新規事業の模索等について検討し、事業団の安定経営の推進に努めた。また、オンラインを用いて、感染症対策の情報共有を行った。
②経営会議 （2回開催）	人事評価制度実施に向けて、要綱案を検討した。また、今後の課題となる非常勤職員の給与待遇や、正職員の定年について情報共有を行った。
③総務担当者会議 （3回開催）	庶務、経理事務の適正化に向けた施策の確認、各種制度改正やそれに関する事務取扱に係る情報共有を行った。
④放課後等デイサービス事業検討会議 （2回開催）	報酬改定に伴う放課後等デイサービス事業の経営の影響を議論した。また、法人としての今後の放課後等デイサービス事業のあり方について検討した。
⑤安生園特別対策会議 （1回開催）	築38年となり修繕箇所が増加している安生園の施設整備や大規模修繕に関しての情報共有と、今後の見通しを検討した。
⑥相談支援事業検討会議 （1回開催）	相談支援事業所あおばの現状について情報共有を行い、経営状況や利用者ニーズを踏まえた今後のあり方について検討した。
⑦人材確保・育成委員会 （2回開催）	人材確保、育成、定着に係る取組状況についての情報共有を行ったほか、事業団の人材育成計画について検討した。
⑧職場環境改善委員会 （1回開催）	I C Tの活用による業務改善取組状況や、年休・特休の取得状況等、法人内の職場環境についての確認や情報共有を行った。
⑨監査委員会 （2回開催）	法人内の内部牽制の強化と、法定監査受検に対応できる人材の育成を目的とした内部監査実施に向けて、内容を検討した。委員会形式のほか、サービス種別（障害福祉、高齢者福祉）や、分野別（処遇、経理、運営管理）で「部会」形式の勉強会を実施した。
⑩福祉サービス質の向上推進委員会 （4回開催）	「福祉サービス第三者評価」の資格を保有する職員を講師に、評価項目の内容を確認した。その後、法人が提供している福祉サービスの自己評価を実施し、課題点などの確認と是正を図り、提供するサービスの質と職員の資質の向上を図った。
⑪環境整備委員会 （都度実施）	各施設の所有地の環境整備や薪用の原木の伐採、稲作支援等を実施した。

(5) 職員の福利厚生

非正規職員（一部を除く）を含む全職員を対象としてソウェルクラブに加入（掛金事業主負担）し、福利厚生の充実を図った。

また、法人認定のクラブ活動に対する助成金支援制度や、資格取得者に対する奨励金支給制度を実施した。

(6) 社会福祉事業団関連会議等

会議名	実施日	場 所	出席者
①ブロック事業団連絡協議会 事務局長会議	令和3年7月	※コロナ禍による書面決議	—
②第1回ブロック事業団 連絡協議会	令和3年8月	※コロナ禍による書面決議	—
③第54回全国社会福祉事業団 大会	令和3年10月28日 ～11月27日	期間限定のWEB配信	1人
④ブロック事業団連絡協議会 職員研修Ⅰ	令和4年2月10日	オンライン開催	3人
⑤第2回ブロック事業団 連絡協議会	令和4年2月18日	オンライン開催	4人

※ブロック事業団連絡協議会職員研修Ⅱについては、コロナ禍により中止となった。

5 研修の参加状況

(1) 外部研修

研修名	実施日	場 所	出席者
①社会福祉法人運営の基本対 策セミナー	令和3年6月15日	青森市 「県民福祉プラザ」	1人
②風水害のリスクマネジメント	令和3年6月29日	オンライン開催	1人
③発達障害とは何？発達障害 をどう考える？	令和3年7月15日	オンライン開催	1人
④社員の本音に基づく人材育 成とは	令和3年8月26日	オンライン開催	1人
⑤人口 2/3 激減時代の到来と 新「成長戦略」	令和3年9月8日	オンライン開催	1人
⑥はじめての簿記	令和3年11月4日	盛岡市「いわて県民情報交 流センターアイーナ」	2人
⑦公正採用選考人権啓発推進 員研修	令和3年11月8日	青森市 「アピオあおもり」	1人
⑧改正育児・介護休業法オン ライン説明会	令和4年1月24日	オンライン開催	1人
⑨介護事業者のためのBCP作 成セミナー	令和4年1月24日	オンライン開催	1人
⑩社会福祉法人の事務効率化 セミナー	令和4年2月25日	オンライン開催	1人
⑪雇用調整金説明会	令和4年2月25日	オンライン開催	1人
⑫福祉人材確保支援セミナー 及び福祉人材確保研究会	令和4年3月9日	オンライン開催	2人

(2) 法人内研修

詳細については、別紙1「令和3年度法人内研修実施状況」(P9・10)参照。

(別紙1)「令和3年度法人内研修実施状況」

1 参加型による研修

月	日	曜日	研 修	講 師	参加者 (人)
4	13	火	新任職員研修 (第1回目)	理事長、専務理事、事務局長他	4
	15	木	新任職員育成研修 I	(株)セミナー東北 鎌田昌子氏	11
5	6	木	交通安全研修 (前期)	青森モータースクール職員	11
	7	金			14
	19	水	初級職員研修	(株)セミナー東北 鎌田昌子氏	15
6	7	月	キャリア面談事前研修	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	29
	11	金			25
	10	木	2年目職員フォローアップ研修	事務局次長、町田所長	10
	16	水			7
	24	木	3年目職員レベルアップ研修	(株)セミナー東北 鎌田昌子氏	19
7	2	金	評価者研修 (1回目)	(株)川原経営総合センター	24
	8	木	新任職員研修 (第2回目)	理事長、専務理事、事務局長他	4
8	2	月	中職員研修	(株)セミナー東北 鎌田昌子氏	15
	26	木	上職員研修	(株)セミナー東北 鎌田昌子氏	6
	19	木	新任職員育成研修 II	事務局次長、町田所長	3
	28	土	法人内実地研修	法人内職員	7
	30	月	評価者研修 (2回目)	(株)川原経営総合センター	24
9	9月~10月		法人内実地研修	法人内職員	7
10	5	火	利用者支援理解促進研修(障害者)1回目	町田所長	6
	13	水	利用者支援理解促進研修(障害者)2回目	町田所長	12
	14	木	メンタルヘルス及び障害(精神)の理解促進研修	医療法人芙蓉会 村上拓也氏	18
	19	火	利用者支援理解促進研修(障害者)3回目	町田所長	16
11	2	火	虐待防止研修 (1回目)	青森大学教授 船木昭夫氏	18
	11	金	利用者支援理解促進研修(高齢者)	外部(医療機関関係者想定)	21
	18	金	新任職員研修 (第3回目)	理事長、専務理事、事務局長他	4
	18	金	虐待防止研修 (2回目)	青森大学教授 船木昭夫氏	11
	22	火	新任職員育成研修 III	法人内職員	2
	30	水	虐待防止研修 (3回目)	青森大学教授 船木昭夫氏	11
12	3	金	ハラスメント予防研修	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	12
	3	金	交通安全研修 (後期) 1回目	青森東部自動車学校職員	6

	14	火	交通安全研修（後期）2回目	青森東部自動車学校職員	9
1	21	金	評価者研修（3回目）	（株）川原経営総合センター	24
3	9	水	働きがいのある職場づくり研修	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	12
	15	火	新任職員研修（第4回目）	理事長、専務理事、事務局長他	4
	23	水	新任職員育成研修IV	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	2

2 映像による研修

	研 修	講 師
DVD 研修	個人情報保護に関する研修	事務局次長
	看護技術基礎研修	法人内看護職員他
	エルダー研修	事務局次長
	被評価者研修	（株）川原経営総合センター

II 県民福祉プラザ管理室

1 概況

当県民福祉プラザの受託経営事業については、これまでと同様に円滑な貸館運営を実施し、自主事業においても事業内容を精査して実施した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、貸館運営の自粛や自主事業の中止を余儀なくされ、来館者数は大幅に減少した。

2 職員の状況

職名	室長	事務員	夜間事務補助員	計(人)
職員数	1	5	2	8

3 事業の実施状況

(1) 県民福祉プラザ受託経営事業（指定管理受託事業）の安定的な運営

令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受けた年度であった。県民福祉プラザでは、国が策定したガイドラインに基づき、収容人数の制限や館内消毒作業、3密への呼びかけなど新型コロナウイルス感染症への対策を行ってきた。

しかし、7月から12月までの6か月間は大規模修繕により全館休館、また、1月から3月までの3か月間は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策として県立施設が全館休館となったことを受け、年度を通して利用件数及び利用者数は令和2年度以上に大幅に減少した。

研修室等使用実績については、有料研修室利用者数延べ13,810人(前年度比33.4%)、有料研修室利用件数702件(前年度比30.9%)であり、利用人数、利用件数ともに大きく減少したが、稼働月数(会館期間)に換算すると利用者数延べ人数前年度比80.1%、利用件数前年度比73.7%となり、新型コロナウイルス感染症による影響(研修会等イベントの自粛)を除くと令和2年度同等の需要があった。

詳細については別紙2「令和3年度県民福祉プラザ利用状況」(P13)のとおり

(2) 県民福祉プラザ自主事業の積極的な運営

自主事業については、新型コロナウイルスの影響によりヨガ教室や健康教室、将棋大会など集客して行う事業が一部また全部中止となった。特に7月から3月までの休館期間中は全ての事業において実施することができず、売り上げは、898千円の目標に対し、383千円にとどまった。

しかし、青森県立郷土館との連携で実施した「青函連絡船の思い出」写真パネル展示では、エントランスホールにて約1か月間の展示を行うことで3密を避けた事業を展開した。休館中のため一般利用者への開放はできなかったが、入居機関・団体職員からはご好評をいただいた。併せて予定していた講演会「青函連絡船のあゆみ」については新型コロナウイルスの影響により中止となったが、次年度においては、展示方法や告知内容を精査し、引き続き密にならない自主事業として開催を見込みたい。

また、当事業団の各所属が有する福祉のノウハウを活用し、外部から講師を招待して県内福祉施設関係者、教育関係者、家族を対象にした講演会「子どものころとことばの育ち」～周りの大人にできること～をオンラインで開催し、県民の福祉に関する理解

促進に努めた。

(3) 福祉機器展示コーナーの充実と活用

2階福祉機器展示コーナーの展示物については、来館者に最新の福祉機器に触れてもらえるよう、令和元年度より入れ替えを強化してきたが、令和3年度は介護用前広便座、介護服2点、介護用自助食器7点、専用アプリ連動のくすりコール・ライトを入れ替えた。

また、職員1人の福祉用具専門相談員資格取得により、展示コーナーでの相談業務の充実を図った。

(4) 新型コロナウイルス感染症に伴う新しい生活様式への対応

新型コロナウイルス感染症への対策として、各研修室受入れ定員の制限、館内共有スペースのソーシャルディスタンス確保など、国が提示している業種別ガイドラインの事項を徹底遵守し、感染症拡大予防対策を講じた。

また、館内 Wi-Fi を利用してのオンライン研修やリモート会議といった、これまでなかった利用形態での使用が増加した。特に利用者からは研修室におけるインターネット環境に関する問い合わせも多く、県民福祉プラザとしても今後こういった需要に応えるべく全研修室への Wi-Fi を整備した。

イベント名	期 間	延べ回数	延べ参加数	売 上
健康教室	令和3年4月5日から 令和3年6月28日まで	8回	73人	36,500円
ヨガ教室	新型コロナウイルスの影響 による休館のため開催なし	—	—	—
エントランスホール 出店	新型コロナウイルスの影響 による休館のため開催なし	—	—	—
デジタルサイネージ	令和3年4月1日から 令和3年7月31日まで	4か月間	2団体	306,750円
福祉に係る講演会	令和4年3月19日	1回	39人	39,000円

4 研修の参加状況

研修名	実施日	場 所	出席者
16 ミリ映写機操作技術 講習会	令和3年11月16日	中央市民センター	2人
福祉用具専門相談員オ ンライン講習会	令和3年11月12日 ～12月28日(全7回)	オンライン受講	1人

(外部研修のみ)

(別紙2) 令和3年度県民福祉プラザ利用状況

No	研修室名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
1	県民ホール	利用件数(件)	11	11	23	0	0	0	0	0	0	1	4	50	
		利用者数(人)	870	945	1,742	0	0	0	0	0	0	0	40	280	3,877
2	大研修室	利用件数(件)	12	17	15	0	0	0	0	0	0	0	5	8	57
		利用者数(人)	368	1,083	350	0	0	0	0	0	0	0	15	208	2,024
3	中研修室	利用件数(件)	12	16	15	0	0	0	0	0	0	0	4	9	56
		利用者数(人)	307	808	255	0	0	0	0	0	0	0	76	145	1,591
4	小研修室	利用件数(件)	27	14	24	0	0	0	0	0	0	0	1	6	72
		利用者数(人)	315	104	173	0	0	0	0	0	0	0	6	45	643
5	多目的室4A	利用件数(件)	18	20	28	0	0	0	0	0	0	0	1	4	71
		利用者数(人)	332	342	598	0	0	0	0	0	0	0	3	69	1,344
6	多目的室4B	利用件数(件)	18	15	15	0	0	0	0	0	0	0	1	3	52
		利用者数(人)	358	252	291	0	0	0	0	0	0	0	5	33	939
7	講師控室1	利用件数(件)	6	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
		利用者数(人)	17	14	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35
8	講師控室2	利用件数(件)	4	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	3	26
		利用者数(人)	10	30	13	0	0	0	0	0	0	0	0	11	64
9	多目的室3B	利用件数(件)	19	14	15	0	0	0	0	0	0	0	0	6	54
		利用者数(人)	183	162	136	0	0	0	0	0	0	0	0	72	553
10	多目的室3C	利用件数(件)	29	23	29	0	0	0	0	0	0	0	0	7	88
		利用者数(人)	200	142	190	0	0	0	0	0	0	0	0	42	574
11	多目的室2A	利用件数(件)	18	10	13	0	0	0	0	0	0	0	3	8	52
		利用者数(人)	336	158	312	0	0	0	0	0	0	0	70	133	1,009
12	多目的室2B	利用件数(件)	25	23	24	0	0	0	0	0	0	0	7	19	98
		利用者数(人)	260	234	263	0	0	0	0	0	0	0	51	197	1,005
13	調理実習室	利用件数(件)	3	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13
		利用者数(人)	21	70	46	0	0	0	0	0	0	0	0	15	152
合 計		利用件数(件)	202	185	214	0	0	0	0	0	0	0	23	78	702
		利用者数(人)	3,577	4,344	4,373	0	0	0	0	0	0	0	266	1,250	13,810

【参 考】

年 度	利用件数	利用人数
令和2年度	2,275	41,370
令和3年度	702	13,810
増 減	-1,573	-27,560

第2 障害児入所施設八甲学園

1 概況

八甲学園の運営にあたっては、コロナ禍にありながらも基本理念のもと、利用者の人権の尊重、利用者の有する能力に応じ、健やかな成長ができるよう、また、地域社会の一員として日常生活や社会生活が営むことができるよう、利用者や家族等の思いに寄り添い、利用者、家族、地域社会から信頼される施設運営を実施してきた。

障害児入所施設としては、今後の在り方や方向性を検討し、令和3年度の定員を令和2年度の14人から10人に縮小して事業運営をした。併せて、多様化する地域住民の福祉ニーズの把握や学校、関係機関・団体との連携を図りながら、通所事業、共同生活援助事業における利用者獲得や利用率のアップ等に努め、各事業の運営を行った。

入所障害児が18歳に達した場合の、いわゆる「過齢児」利用者の入所事業である「経過的施設入所支援事業」について、令和4年度以降については、国の指針による過齢児の成人施設移行方針の流れに沿い、18歳到達又は高校卒業に際して適宜円滑に成人施設移行を進めることとし、令和3年度末で事業終了とした。

また、令和3年度の報酬改定により、「放課後等デイサービス事業」の収支が非常に厳しくなったため、同事業を令和4年度からは当法人内「ライフサポートあおば」に集約することとし、当園「デイサービスセンターはっこう」は令和3年度末で事業終了とした。

働きやすい職場づくりの取組として、年次有給休暇の取得促進や時間外労働の削減、管理職やエルダーとの面談を含め、職場での話しやすい環境づくりに取り組み、職員のメンタル不調の早期発見・早期対応や、心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境の整備に努めた。

2 職員の状況

	園長	課長	主任 支援員	副主任 支援員	支援員	看護師	栄養士 調理員	事務員	世話人	職員 当直員	合計 (人)
総務課	1	1				1	1	3		4	11
こども 支援課		1	1	2	12						16
地域支援 第一課		1	2	3	11	1					18
地域支援 第二課		1	1		21		1		10		34
合計	1	4	4	5	44	2	2	3	10	4	79

※ 総務課看護師は、副主任看護師。

※ 地域支援第二課 栄養士1は、調理員。

※ 嘱託医、産業医及び嘱託職員（心理療法担当）を除く。

3 職員研修

年間研修計画（法人内研修や施設内外の研修）に基づいた研修を実施し、職員全体の資質向上及び専門的な知識と支援技術の獲得を図った。

また、利用者の人権・生命を守るために、虐待・権利擁護・コンプライアンス・危機管理（救命救急、防犯、防災等）に関わる研修の充実を図り、職員の人権意識等の向上に努めた。

4 行事

(1) 年間行事

項目	実施時期・回数	内容
(1) 生活支援	随時	① 社会体験学習 ・買物・食事・公共施設等 (延 50 回)
	5月5日 中止 6月1日～25日 6月26日 7月23日 7月26日 7月29日 7月30日 8月2日～3日 中止 中止 中止 8月8日 8月10日 8月11日 8月14日 8月17日 8月18日 8月20日 中止 9月26日 不参加 10月1日 10月29日 中止 11月15日～12月12日 中止 12月31日 1月4日 1月4日 1月7日 2月5日 中止 3月12日	② 行事 ・端午の節句・春花見外出 ・横内清掃ボランティア ・大掃除ウィーク ・掃除おつかれ会 ・かき氷早食い大会 ・就労体験 ・駄菓子や買い物体験 ・GH (サンハウス) 見学 ・就労体験 ・招待ねぶた観覧 ・ねぶた観覧 ・フラッセ鑑賞 ・浄水場コース昆虫採集 ・夏休み全体外出 ・納涼縁日 ・スイカ割り・花火大会 ・畑収穫体験 ・レッツクッキング ・カラオケ大会 ・夏休みプール外出 ・かかしロード見学ドライブ外出 ・障害者スポーツ大会 ・月見会 ・ハロウィンパーティー ・児童による自主イベント ・大掃除ウィーク ・掃除お疲れ会 ・年越しそば会 ・新年会 ・冬休みスケート外出 ・初詣外出 ・節分 ・ひなまつり ・さよなら会
(2) 学卒児支援	年間	①園外活動：歩行訓練・作業活動 ②園内活動：身辺自立・清掃
(3) 就労支援	随時	①学校の実習に協力 実習先訪問、金銭管理指導

(4) 強度行動障害 特別処遇事業	1回/月 3回/月/1人	・スタッフ会議 ・対象児2人にプレイセラピーを実施
(5) 健康管理	随 時 24回 2回 12回 0回 1回 2回 1回	①通院 ②精神科嘱託医の検診 ③内科嘱託医の検診 ④身長体重測定 ⑤フッ素塗布（中止） ⑥眼科検診 ⑦歯科検診 ⑧定期健康診断
(6) 防災訓練	12回/年	①避難訓練（火災・土砂・地震想定） ②地域防災懇談会（中止） ③総合防災訓練（前期46人） ④総合防災訓練（後期87人） ⑤非常通報訓練（前期） ⑥非常通報訓練（後期）
	1回/年（3/28）	①土砂災害等防災訓練
(7) 研 修	随 時	①職場内研修・研究発表 ②法人内研修 ③法人外県内研修 ④法人外県外研修（主にオンライン研修）
(8) 広報活動	3回/年	①学園だより ②ホームページ ③リーフレット
(9) ボランティア	—	新型コロナウイルス感染症対策により受 入れ実績なし
(10) 実習受け入れ	随 時	専門学校、短大、大学、計9校 実数17人

5 健康管理

- (1) 入所児童については、体位測定（月1回）や健康診断（内科：年2回、歯科：年2回等）を定期的実施し、健康状態を的確に把握した。
- (2) 嘱託医、学校、家庭、グループホーム等との連携を強化しながら、疾病の早期発見及び早期治療に努めた。
- (3) 感染症の予防対策として、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種3回、インフルエンザワクチン予防接種、マスクの着用、手指消毒、手洗いうがいの励行を徹底し、行政通知やマニュアル等に沿って、迅速な対応で新型コロナウイルス感染症を含む感染症の感染防止に努めた。

6 安全・防災管理

利用者が安全で安心した快適な生活が送れるよう、防災・安全管理対策として次の事項を実施した。

- (1) 月1回の防災避難訓練、年2回の総合防災訓練、年1回の土砂災害等防災訓練を実施した。また、グループホームも年2回（火災・風水害各1回）実施した。

- (2) 月1回園内リスクマネジメント委員会を開催した。
- (3) 防災担当者による自主点検及び法定点検を実施した。
- (4) 地域住民（八甲学園地域防災協力隊）の協力による夜間避難訓練（前期総合防災訓練）を実施し、地域住民との連携に努めた。

7 ボランティア・実習生の受入れ

- (1) ボランティアの受入れについては、新型コロナウイルス感染症対策により中止としたが、地域社会とのつながりや相互理解、施設運営の活性化とともに、福祉の担い手の育成を目指した取組であることから、青森市社会福祉協議会等関係機関との連携に継続して努めた。
- (2) 実習生の受入れに当たっては、次代の施設職員を養成するという人材育成の視点に立ち、真摯な対応に心がけ育成に努めた。

8 地域との連携

- (1) 地域に開かれた施設として、施設運営に関してさらに地域住民と連携し、コロナ禍の中、可能な限り地域貢献と地域交流促進に努めた。また、障害者の理解と社会参加促進に努めながら、共生・共助の地域づくりの推進に努めた。
- (2) 青森市との「福祉避難所の確保に関する協定」について、引き続き協定を結んだ。

I こども支援課

【児童入所支援】

1 概況

入所支援においては、少子化及び在宅福祉サービスの充実、行政からの措置ケースの減少等により、近年においては入所利用児童の減少が顕著となっている。全国的に見ても、青森県内全体の障害児入所施設の定員は人口に対し供給過剰な状況にあり、措置率も極端に低い状況にある。また、平成27年度から定員30人を維持していたが、それに見合った職員を配置することは困難な状況となっていた。

今後もこの傾向は続くものと考えられ、令和元年度から段階的に定員を削減し、令和3年度は、定員を10人とした。定員は削減したものの地域の社会資源として、地域や関係機関・団体との連携、良質な福祉サービスの提供を継続して行ったほか、一時保護の体制を維持し、地域のセーフティネットとしての役割を果たした。

2 重点事項の実施状況

(1) 人権擁護・虐待防止

児童の人権を擁護することで障害者虐待や児童虐待及び不適切な支援を防ぐことを目的に、支援やマニュアルを整備の上、職員へ周知し適切に実施した。

(2) 安定運営の定着化

令和2年度に検討した一定の方向性に基づき定員を縮小し、今後の安定的な運営を目指した。そのために、18歳以上の入所支援利用者の退所移行支援を定着させた。

(3) 行事と予算の見直し

人員配置及び経費が伴う社会体験と定例行事に係る支援内容を精査し、新型コロナウイルス感染症対策（代替）行事に変更し実施した。

3 事業の実施状況

(1) 福祉型障害児入所施設

① 定員

10人

② 概要

学校や関係機関と連携しながら、入所児童の健全な成長・発達を目指した生活支援を行うとともに、将来の生活に必要な身辺自立及び社会自立に向けた支援、移行支援を実施した。また、強度行動障害児童には指導訓練を、被虐待児童には心理ケアと心理療法等を実施した。

③ 支援目標

ア 児童の人権を尊重し、心身ともに豊かな生活が送れるよう支援をした。

イ 児童の発達段階・状況に応じ、日常生活に必要な基本的な生活習慣の伸長に向けた支援をした。

ウ 児童が安全に安心して心豊かに暮らせるよう、家庭的な生活環境を整備し、児童の健康管理に留意した。特に衛生面については、徹底して取り組んだ。

エ 児童のニーズを的確に把握するとともに、個別性に配慮した支援計画に基づくサービスを提供した。

オ 個々の児童の意向や課題を踏まえた支援計画に基づき、家庭、学校、医療及び関係機関との連携を図りながら必要な支援をした。

カ 強度行動障害と判定された児童に対しては、医師や看護師、心理士等とも連携し、専門的な統一した支援を行い、行動障害の軽減に取り組むと同時に、職員の人材育成、技術習得をもとに支援の定着化を図った。

キ 被虐待児童への心理的ケアと支援の充実を図るため、当該児童に心理療法（心理検査、プレイセラピー、SST等）を実施した。

ク 地域交流を交えつつ地域の社会資源を活用し、個々に応じた自立生活ができるよう社会性の向上と社会参加の促進を図る。社会体験等については計画に基づき実施しその他児童から要望のあった行事等については、必要に応じて検討をした。

ケ 社会貢献人材育成の一助とするべく、実習生の経験と道程となり得る受入れ対応・カリキュラムを組み提供をした。

(2) 経過的施設入所支援事業

① 定員

福祉型障害児入所施設利用児童と合わせ10人

② 概要

18歳以上の入所利用者について障害者総合支援法に基づく昼夜を分離した障害福祉サービスを活用した支援を実施するとともに、入所利用者のニーズに合わせた成人期福祉サービス等への移行へ向けて、相談支援事業所及び関係機関と連携支援を行った。

③ 支援目標

ア 円滑に障害福祉サービスに移行できるよう、本人の意向を尊重しながら、相談支援事業所、他関係機関と連携して可能なかぎり速やかに移行支援を進めた。

イ 個々の能力に応じた自立した日常生活ができるよう、地域の社会資源を活用し社会性の向上に努めるとともに、地域生活または成人の福祉サービスへの移行を踏まえた支援を行った。

ウ 利用者が安全に安心して心安らかに暮らせるよう、生活環境の整備と家庭的な施設運営を行った。

エ 利用者のニーズを的確に把握するとともに、個別性に配慮した支援計画に基づき、家庭、医療及び関係機関と連携を図りながら必要な支援を行った。

オ 利用者の人権を尊重し、心身ともに豊かな生活が送れるよう支援した。

(3) 短期入所事業（空床型）

① 定員

空床数による。

② 概要

障害児・者を介護されている家族の方が、病気、出産、冠婚葬祭、行事等の理由により一時的に介護ができなくなった場合に、欠員及び入所児童の帰宅等により空いた居室を利用し宿泊を伴う生活支援を提供する予定であったが、令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症対策により受入れを見合わせ、実績はなかった。

③ 支援目標

ア 障害児・者が安全に、安心して過ごすことができるよう環境を設定し、健康状態に配慮した。

イ 家族の要望に対し、できるだけ添えるよう家族や関係機関等と相談・連携しながら支援を行った。

【デイサービスセンターはっこう】

1 概況

児童福祉法、障害者総合支援法、その他関係する法令等に基づき、通所児童一人ひとりが人間としての尊厳を守られながら、心豊かで健やかに成長し、地域社会の一員として自己の能力や特性に応じた暮らしができるよう、多様なサービスを提供した。

強度行動障害がある障害児に対しては、障害特性に応じた専門的な支援を行い、行動障害の軽減に取り組むと同時に、職員の養成を進めた。

また、事業所の実情や利用児童の状況に応じて創意工夫を図り、支援の質の向上のための取組を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定した支援の提供

今後増加するであろう重度知的障害を除く神経発達障害者（ASD、ADHD等）児童のニーズに見合ったPECS等支援システムの提供と、職員育成を実施した。

(2) 支援体制の検討

年代別児童受入れ曜日、職員配置体制、環境等を検討し整え、効率的な運営を行った。新型コロナウイルス感染症の影響や令和3年度末で事業を終了することによる利用者移行を進めたため、目標利用率は100%に至らなかった。

3 事業の実施状況

(1) 定員

10人

(2) 概要

学校通学中の在宅児を対象とし、平日の放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力の向上や将来自立した生活を送るためのトレーニング、日常生活における基本

的な動作の指導及び集団生活への適応訓練等を継続的に提供し、学校教育と連携しながら障害児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを推進した。

(3) 支援目標

- ① 一人ひとりのニーズ・特性・発達段階・環境に合わせた支援計画による支援を確立し、安定した支援を継続した。
- ② 余暇支援・運動プログラム・自立支援・コミュニケーション支援を通して、成功体験を積み上げ、自己肯定感を高められるよう支援した。
- ③ 基本的日常生活動作や自立生活に必要なスキルの向上を図り、将来を見据えた支援を行った。
- ④ 利用児童のより良い成長、発達を促すため、家庭・学校及び支援機関と連携した支援の継続を図った。

II 地域支援第一課

【生活介護事業所はっこう】

1 概況

利用者一人ひとりの意思や人格を尊重し、個々のニーズに応じた支援を基本とし、その人らしく生きがいの持てる地域福祉の拠点として、更なる支援の充実を図った。

生活介護事業については、重度の知的障害や自閉症をはじめとする発達障害を持つ利用者に対応できるよう、個々の特性に合わせた適切な支援環境を整え、専門的かつ個別的なサービスの提供を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 支援の充実と効率的な運営

環境の変化や体調等の様々な要因により欠席が多くなる利用者の状況を見据え、利用者の障害特性及び状態変化によるニーズ把握を行い、一人ひとりの特性に合わせた活動と個別化された支援を提供することで年間利用率90%以上、年間収入10%アップを目指したが、他法人のコロナ感染防止策により数人の事業所併用利用禁止の影響を受けたことで年間利用率約84%、年間収入約4%アップに留まった。

(2) 特別支援学校との連携強化

特別支援学校（第二養護学校・第一高等養護学校）との連携を強化し、将来の利用を見据え実習の受入れをし、実習中からアセスメントを丁寧に行い、3人の卒業生の受入れに繋がった。

(3) 研修参加等による支援の質の向上

障害支援区分5以上で発達障害・強度行動障害の利用者が多く、利用者の障害特性に合わせた支援技術が必要であるため、法人内外の専門分野研修やオンラインによる研修を積極的に活用したほか、研修後には事業所内での伝達研修も欠かさずに取り組みよう努めた。職員の知識習得とスキルアップのための研修に関する情報収集を強化するとともに、OJT、OFF-JTを継続した。

3 事業の実施状況

(1) 定員

20人

(2) 概要

主に障害支援区分5以上の障害の重い方、発達障害の方を対象に、利用する方の障害特性に応じ本人にとってわかりやすい環境設定を行うとともに、日常生活スキル向上のための機能訓練・生産活動・創作・余暇・運動・レクリエーション活動等を実施した。

障害特性に合わせたグループを編成し、グループごとに支援プログラムを立て利用者一人ひとりの身体機能や行動特性に合わせた環境を設定し、利用者本人が達成感と成功体験を積み重ね、個人の強みを活かして活動ができるような手立てを用いた支援を行った。

生産活動（軽作業）は、法人内外の事業所等からの事務作業の請負や、古紙等のリサイクル作業、新たな作業として、公用車の清掃作業も請負い活動した。園内外への回収や運搬作業を通じて、それに関わる方々との交流を図った。

(3) 支援目標

- ① 利用者の障害特性に応じ本人にとってわかりやすい環境設定を行い、柔軟で自立的な活動ができるような視覚支援、コミュニケーション支援を行った。
- ② 利用者一人ひとりの身体機能や障害特性、個別のニーズ等に基づいた個別支援計画を立案・実施し、本人が達成感と成功体験を積み重ねられるようグループごとに支援プログラムを立て支援を行った。
- ③ 軽作業（リサイクル・古紙リサイクル）や園芸活動（プランター栽培など）を実施し、日中活動の充実を図った。
- ④ 毎月、創作活動・調理活動・音楽活動・ダンス・ゲーム等のレクリエーション活動を実施した。外出活動は、コロナ禍のため不定期での実施となったが、それに替わる活動として、園内でグループごとの忘年会や慰労会を企画し、楽しさの共有と余暇の充実を図った。アニマルセラピーについては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、年間通じて活動を中止した。
- ⑤ 利用者のサービスを円滑に行う上での関係機関、家庭との連携を強化した。

(4) 行事及び事業実施状況

① 利用者の状況

ア 定員 20人

イ 契約者数 23人

ウ 各月契約者数及び延べ利用人数

定員 20人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約者 数(人)	20	20	20	20	22	22	22	22	23	23	23	23	
開所日 数(日)	19	19	22	21	21	20	22	21	21	20	18	21	245
延べ利用 人数(人)	318	298	362	326	327	332	366	352	349	354	323	370	4,077

② レクリエーション活動（回数）

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
創作	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	23
調理	2	2	2	3	3	3	2	3	1	1	3	2	27

音楽・ダンス	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	35
ゲーム	4	3	2	3	3	3	3	2	2	2	3	2	32

③ 外出・外部行事（忘年会・慰労会含む）

月	回数	外出内容・外出先
4月	0	コロナウイルス感染拡大の影響により中止
5月	0	コロナウイルス感染拡大の影響により中止
6月	1	Aグループ：おやつ外出
7月	3	Aグループ：おやつ外出、園外外出（八甲田憩いの牧場） Bグループ：園外外出（中野もみじ山）
8月	3	Aグループ：おやつ外出、園外外出（浪岡交流センターあびねす） Bグループ：園外外出（横内周辺散策）
9月	3	Aグループ：おやつ外出、カラオケ（就労Bはっこう内） Bグループ：園内模擬店（ビッグボーイ）
10月	3	Aグループ：おやつ外出、園外外出（新総合運動公園遊具広場、青森市スポーツ公園わくわく広場）
11月	1	Aグループ：おやつ外出
12月	3	Aグループ：おやつ外出、 Bグループ：園外外出（浅所海岸）園内で忘年会、青森市手をつなぐ育成会クリスマス大会
1月	3	Aグループ：おやつ外出、園外外出（大星神社） Bグループ：園外外出（大星神社）
2月	0	コロナウイルス感染拡大の影響により中止
3月	1	園内で慰労会

④ 職員研修関係

法人内の研修を始め、オンラインでの各種研修等に職員が参加し、専門的な支援スキルの向上と維持に努めた。

⑤ 広報関係

パンフレットを作成し、市内相談支援事業所及び関係機関等に配布して利用の促進に努めた。

【相談支援事業所あおば】（指定特定相談支援、障害児相談支援）

1 概況

利用者やご家族がおかれている環境やニーズ等に応じた障害福祉サービス等をご利用いただくために、利用者やご家族について丁寧なアセスメントを実施し、障害福祉サービスの調整及び社会資源の情報提供等、総合的な相談支援を実施した。また、地域の社会資源の開発を図り、行政や関係機関等と連携し、多様なニーズに応える包括的なサービス等利用計画作成に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 質の高い相談支援の提供

相談支援業務を円滑に実施するため、業務マニュアルを作成し、OJTを実施し、

相談支援の質の向上に努めた。

(2) 人員配置を含めた効率的な運営の試行と事業の方向性の確立

効果的かつ効率的な人員配置を実施し、適正な契約者数への調整を行うことにより、相談支援事業の運営の方向性を確立した。

3 事業の実施状況

(1) 概要

- ① 障害者や障害児等が障害福祉サービスや障害児通所支援（児童発達支援や放課後等デイサービス等）を利用する前に、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う等の支援を行った。
- ② 障害者等の福祉に関する全般の問題につき、障害者等からの相談に応じ、必要な情報（障害福祉サービス等）の提供及び助言を行った。

(2) 支援目標

- ① 利用者の人権尊重を基本とし、利用者やご家族の意向や選択を尊重しながら、利用者一人ひとりの能力、適性、ニーズ等に基づいたサービス等利用計画の作成を行った。
- ② 地域又は関係機関との信頼関係を深め、連携を密に行った。また、新型コロナウイルス感染予防のためのマスク着用、手指消毒等感染予防に努め業務を行うとともに、感染が拡大し、訪問や面談が困難な時期は、電話・郵送・オンライン等を活用し、利用者や家族、関係機関との連携に努めた。
- ③ 利用者やご家族が地域で安心して生活するために、権利擁護及び社会資源を活用するための助言、指導を行った。
- ④ 研修等への積極的な参加と自己研鑽に努め、相談支援専門員の資質の向上に努めた。

(3) 利用状況及び事業の実施状況

事業名	契約件数	サービス等 利用計画作成	モニタリング
①指定特定相談支援事業	147 件	146 件	346 件
②障害児相談支援事業	44 件	44 件	76 件

(4) 職員研修関係

- ① 青森市相談支援事業所連絡会議（主催：青森市）及び圏域会議に行政及び他相談支援事業所との連携を図ることと相談支援業務に必要な情報収集を目的に参加した。

(ア) 青森市相談支援事業所連絡会議

期 日	場 所
令和3年5月25日	Web
令和3年7月21日	Web
令和3年9月24日	Web
令和3年11月18日	Web
令和3年12月20日	Web
令和4年2月24日	Web

(イ) 圏域会議

期 日	場 所
令和3年8月19日	横内市民センター（集合形式）
令和3年9月17日	横内市民センター（集合形式）
令和3年10月15日	Web
令和3年11月26日	Web
令和3年12月24日	横内市民センター（集合形式）
令和4年1月28日	Web
令和4年2月25日	Web
令和4年3月25日	Web

- ② 法人内研修や県内外の各種研修を受講し、相談支援業務のスキル向上に繋げた。研修は対面及びオンラインやオンデマンド配信を積極的に活用し、受講した。

Ⅲ 地域支援第二課

【就労継続支援B型事業所はっこう】

1 概 況

地域の中で利用者がその人らしく生きがいを持って生活できるよう、一人ひとりの意思や人格を尊重し、個々のニーズに応じた支援を行うよう努めた。

リサイクル班・ショップ班の2班体制を継続し、より魅力ある作業支援、余暇支援と安定した運営、工賃向上を目指して取り組んだ。

2 重点事項の実施状況

(1) 支援の充実と高い利用率の維持

利用者の強みを伸ばす支援を支援計画に基づき行い、安全・快適な作業環境の提供に努め、平日の行事実施などで余暇支援の充実を図った。多くの利用者が参加し楽しんで活動できるよう取り組み、利用率については100%以上(111%)を維持した。

(2) 作業班の効率的な運営体制の検討

リサイクル班では令和2年度に導入した新規の空缶プレス機を活用し、これまで空缶プレスに携わっていなかった利用者が操作を覚えることができるよう取り組むなど、作業班のより効率的な運営に向けた体制を検討しながら生産活動を行った。

(3) 利用者工賃の水準維持

リサイクル班はアルミ価格の上昇により前年度と比較して2倍以上の大幅な収入増となり、ショップ班は県民福祉プラザ改修工事による休館期間、ランチ食数の減を補うために弁当販売を行うことで売上げの維持を図るなど作業内容を精査し、平均月額工賃は前年度の14,825円から15,017円へと向上した。

3 事業の実施状況

(1) 定 員

20人

(2) 概 要

一般就労が困難な方々に対して生産活動の場を提供し、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な作業支援を実施した。余暇支援の面でも、利用者のニーズに応じた様々な活動を企画し、利用者が参加しやすい環境を整えながら実施した。

(3) 支援目標

- ① 利用者一人ひとりのニーズに即した支援計画に基づき、強みを伸ばし、働く喜びを実感できる支援を行った。障害者就職面接会への参加については、新型コロナウイルス感染症の影響により面接会が中止となったことから実施できなかった。
- ② 作業場の清掃等維持管理に重点を置き、安全・快適に作業ができる環境を提供した。
- ③ 行事について、月1回程度の土日開所日を設けるとともに、より多くの利用者が参加できるよう平日に実施する機会を増やし、余暇活動の充実と社会参加の促進を図った。
- ④ 地域や関係機関との連携を強化し、共生・共助の地域づくりを図った。しかし、例年行っている地域交流（町内会の清掃、しめ縄作り等）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

(4) 生産活動の状況

① リサイクル班

民間事業所及び合子沢町会、北蛸沢町会への回収を行い、主たる収入源であるアルミ缶の回収量が減らないよう努めた。また、地域との連携の一環として、北蛸沢町会の回収ボックスの洗浄(年2回)や、横内町会・地元企業と協力してのペットボトルキャップリサイクル活動に取り組んだ。

請負部門は、清掃、外部受注の作業を行った。清掃作業は八甲学園内の清掃を受け持ち、毎日の園内清掃に従事した。

菜果部門は、畑作業で野菜等の栽培を行い、ショップ班の喫食事業の原材料として提供及び販売を行った。11月には新型コロナウイルス感染症対策に留意しつつ、県からの委託事業である農福連携マルシェを開催した。

外部受注部門は、青森市パークメンテから受注した4か所（平和公園、奥野中央公園、浜田中央公園、野木和公園）の花植え、水撒き、除草作業や、県民福祉プラザの植栽管理と雪囲い、市内10か所のグループホームの除雪等を行った。

② ショップ班（県民福祉プラザ2F こだわりの店『つぼみ』）

共同受注窓口体制事業で県内の福祉施設で作られた製品の販売のほか、喫食事業として1日限定40食のランチ提供と、共同生活援助事業所サンハウス入居者への食事販売を行った。県民福祉プラザ改修工事による休館期間はランチ食数を20食に減らしたが、弁当の10食追加販売を行うことで売り上げの維持に努めた。また、メニュー・味・量等についての様々な意見をアンケート方式により把握し、より良い食事内容の提供に努めた。

(5) 事業実施状況

① 利用者の状況

区 分	人数(人)
定 員	20
令和3年度開始時利用者数	25(男19・女6)
令和3年度終了時利用者数	24(男18・女6)

② 各班の売り上げ状況

作業班	売上(円)
リサイクル班	10,145,487
リサイクル班 (請負部門)	2,280,773
ショップ班	11,731,140
計	24,157,400

③ 工賃支給状況

区 分	金額(円)
1人あたり平均月額工賃	15,017

④ 行事等

月	レクリエーション (開所日・行事)	その他 (地域交流等)
4月		
5月		
6月	大掃除	
7月	ピクニック、サマードライブ	
8月		
9月	スポーツの会、収穫祭	
10月	紅葉ドライブ	
11月	工作	
12月	クリスマス大会参加、忘年会、大掃除	
1月	初詣、調理実習	
2月	コーヒーサロン	
3月	慰労会	

※新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら開催した。

⑤ 職員研修関係

新型コロナウイルス感染症の影響により、法人内研修への参加が中心となったものの、外部開催のオンライン研修への参加機会も持ち、業務に必要な支援スキルの向上に努めた。

⑥ 広報関係

広報「八甲学園だより」に事業所の取組や行事等についての内容を掲載した。また、パンフレットを作成し、見学者や実習生等に配布した。

【共同生活援助事業所サンハウス】

1 概 況

グループホーム利用者が地域で安心して暮らし続けられるよう、関係機関と連携し、社会資源を活用しながら支援の充実を図った。

2 重点事項の実施状況

(1) 世話人の支援の質の向上

世話人の研修参加に力を入れるとともに、OJT、OFF-JT、GHごとの業務マニュアル整備等を行った。新型コロナウイルス感染症の影響もあり外部研修への参加は困難であったが、世話人会議の中での研修開催やDVDの活用等により障害についての理解を深めた。GHごとの業務マニュアルは見直しを行いながら整備・活用し、

支援の質の向上を図った。

(2) 効率的な運営

見学・体験利用の受入れ体制について整備するなど、満床を目標に取り組み、令和3年8月に入居率100%を達成し、年間の増収に繋げた。なお、令和3年10月に1人の利用者が退去し、その後空室1となった。

(3) GHの老朽化による移転及び物件の情報収集・選定の継続

老朽化の著しいGH2棟のうち1棟の移転を実施し、令和3年4月1日付で桂木地区の物件を使用した「第六サンハウス」を開設した。残る1棟についても移転先物件の情報収集・選定を継続して行った。

3 事業の実施状況

(1) 定員

53人

(2) 概要

利用者が地域で自立し充実した生活を送ることができるよう、ニーズを的確に把握し、個別支援計画に基づいて支援員・世話人が共通認識を持ちながら、相談、食事の提供や金銭管理、健康管理、その他の必要な日常生活上の支援の提供に努めた。

(3) 支援目標

- ① 利用者の主体性を尊重し、意思やニーズに応じたサービスを提供した。
- ② 利用者が地域社会の一員として安心して生活できるよう、就労先や日中活動の場、相談支援事業所、市町村等の各種関係機関と連携し支援した。
- ③ 利用者の心身の状態を通院状況や健診結果等から把握し、医療機関等との連携に努め、健康管理に配慮した。
- ④ 食事提供において、栄養士監修によるバランスの取れたメニューの提供を行い、各グループホーム間のサービスの質の平準化と利用者の食事に対する満足度の向上を図った。
- ⑤ 防災計画に基づいた避難訓練を実施し、火災、風水害を含む各種災害への意識を高め、安全対策に取り組んだ。
- ⑥ 利用者の会「はっぴい」やあおもりグループホーム連絡協議会等の活動を通じての余暇活動の充実を目標としたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大人数での活動は困難であった。
- ⑦ 見学・体験利用の受入れを積極的に行い、希望者に対し情報提供を行った。

(4) 事業実施状況

① グループホームの設置状況

名称(地区)	設置年月日	定員(人)
① サンハウス(緑)	平成5年 4月1日	6
② 第二サンハウス(蛭沢)	平成6年 4月1日	5
③ 第三サンハウス(新城)	平成8年 4月1日	5
④ 第五サンハウス(幸畑)	平成25年12月1日	5
⑤ 第六サンハウス(桂木)	令和3年 4月1日	5
⑥ 旭ハウス(大野)	平成21年 4月1日	5
⑦ 第二うとうハイム(筒井)	平成22年 4月1日	5
⑧ おくのハウス(奥野)	平成25年12月1日	7
⑨ 紅葉ハウス(新城)	平成24年10月1日	5

⑩ 第二紅葉ハウス(新城)	平成 25 年 11 月 1 日	5
合 計		53

② 利用者の状況

内 容	人数(人)
定 員	53
令和 3 年度当初利用者数	50 (男 37・女 13)
令和 3 年度内の利用終了者数	1 (男 1・女 0)
令和 3 年度内の利用開始者数	3 (男 3・女 0)
令和 3 年度末現在の利用者数	52 (男 39・女 13)

③ 行事等

月	内 容	地域行事
4 月		
5 月	避難訓練	
6 月		
7 月	コロナワクチン接種 (1 回目)	
8 月	コロナワクチン接種 (2 回目)	
9 月		
10 月		
11 月		
12 月	避難訓練	
1 月		
2 月		
3 月	コロナワクチン接種 (3 回目)	

④ 職員研修関係

新型コロナウイルス感染症の影響により法人内研修への参加が中心となったが、外部オンライン研修やDVDの活用、世話人会議での研修実施も行い、支援スキルの向上に努めた。

⑤ 広報関係

広報「八甲学園だより」に事業所の取組や行事等についての内容を掲載した。また、各グループホームの写真等を掲載したパンフレットを作成し、見学者や関係機関及び団体等に配布して事業所のPRに努めた。

第3 養護老人ホーム安生園

1 概況

事業所の運営にあたっては、「当事業団の経営理念、職員倫理綱領」及び「安生園の基本理念」を遵守し、養護老人ホーム安生園・ヘルパーステーションあんじょう・居宅介護支援センターあんじょうが常に連携し、利用者の生活支援を推進してきた。

利用率向上に向けた広報活動については、新型コロナウイルス感染状況をみながら、随時実施してきた。

また、今般の感染状況を踏まえ、安生園の感染症対策強化を図り、利用者が安全に生活を送れるよう標準予防策の徹底に努めた。

2 職員の状況

所 属	養護老人ホーム	ヘルパー ステーション	居宅介護 支援センター	計
職員数（人）	25 (医師2名含む)	11	4 (うち1名育休含む)	40

I 養護老人ホーム安生園

1 概況

養護老人ホーム安生園は、昭和26年の開設以来、老人福祉法の基本理念に基づいた施設運営と、利用者の権利擁護と意思決定を尊重し、個々の支援計画に基づいた生活支援に努めてきた。利用者の生活支援では、潤いと生きがいのある生活をしていただくため、個々に要望を聴き取るとともに自治会代表者会議等で意見を求め、各行事に要望等を反映させて生きがい支援の充実に努めた。

令和3年度の措置入所者は、青森市7人、弘前市2人、野辺地町1人、退所者は、青森市10人であった。利用者の高齢化（平均年齢80.9歳、80歳以上56人）により、介護を必要とする利用者は、要支援・要介護者あわせて67人となり、介護保険サービスの利用は、外部・内部・福祉用具貸与あわせて115人（重複計上）であった。身体機能の低下のほか、認知症、病弱、精神疾患のある方やDV、触法など、ニーズの多様化と複雑化が顕著であり、従来の見守り支援から、きめ細かな専門的な支援が必要となってきた。特に近年は、転倒防止用歩行器やシルバーカーの利用、福祉手すりの設置などの対策を講じなければならない利用者が増えた。

リスクマネジメントでは、令和3年度のヒヤリハット・アクシデントが114件、うち59件が転倒であり、転倒怪我、無断外出、誤薬による措置機関への事故報告事案は11件であった。一つの転倒は大きな事故に繋がることから、利用者及び職員への注意喚起を徹底するなど転倒防止に努めてきた。また、病弱者の医療面においても、早期から医療機関と連携を図りながら利用者の健康と身体機能の維持に努めた。

地域交流については、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度に続き園行事などでの地域の方々との交流を控えた。

また、食品ロス軽減の『コープフードバンク活動』に賛同し、農産品の提供を受け、利用者の食事やおやつとして提供した。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

新型コロナウイルス感染状況をみながら、利用者獲得に向けた市内全域の公営住宅などへのポスティングを2回実施した。

地域包括支援センター等の関係機関への訪問は控え、電話の照会等を活用して利用者獲得に向けたPRを実施した。PR活動の成果は顕著に表れ、93件の相談があり、内24件が見学に至り、10人が入所につながった。

また、課題として、青森市で入所を希望する方が、四半期に一度の入所判定委員会を待つことができず他施設へ入所するケースがあった。

(2) 住環境の整備

設備の老朽化に伴い、ボイラーと給排水関連の突発的な不具合が多発した。

利用者の生活に影響が大きい給湯、暖房、給排水設備の修繕を随時行い、住環境の整備をした。

また、これまで不十分であった居室の整備を、新入所や居室替えのタイミングを利用し、13室の居室リフォームを行い快適な住環境の提供に努めた。

既存施設の長寿命化や部分的改修、付帯設備の修繕等については、優先順位を検討し、ナースコールの交換とA重油地下タンクFRP内面ライニング工事を令和4年度に実施することとした。

(3) 感染症対策の強化

感染症対策委員会では、特に新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組み、厚労省等の通知や地域の感染状況をみながら、利用者の社会生活維持に配慮した感染対策を講じた。

職員に向けた高齢者施設等における感染症発生時の対応研修や、利用者を対象とした感染症予防出前講話等を実施し、個々の意識付けを図りながら感染予防に努めてきた。

また、「青森市介護施設等における感染拡大防止対策事業補助金」を申請し、施設内松寮エリアのゾーニングと簡易陰圧室及び陰圧装置設置を令和4年度に整備することになった。

(4) フレイル予防の実施

利用者にフレイル予防の趣旨を理解いただき、9月にフレイル診断、12月に体力測定を実施した。

栄養・運動・社会参加を3つの柱とし、栄養面では、嗜好調査や給食会議等で利用者の意見を反映させた食事の改善や健康メニューの提供に努めた。運動では、転倒予防体操やフレイルNO園（利用者用畑）、園芸活動への参加をすすめた。社会参加は、新型コロナウイルス感染防止のため、園内行事等の参加を目的とし、自室で過ごすことが多い利用者を中心に紙芝居や寸劇、創作活動など、利用者が興味関心を持つ内容を企画し参加をすすめた。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、行動に制限がある中、少しでも生きがいを持った生活ができるよう努め、フレイル予防につなげた。

(5) 非常災害対策の強化

安生園災害マニュアルを基に、非常災害時の炊き出し訓練と風水害を想定した訓練を実施した。炊き出し訓練も徐々に定着してきており、利用者へ円滑に食事を提供することができた。風水害を想定した訓練では、簡易担架を使用して利用者を2階へ避難誘導する訓練を実施し、昇降時の搬送方法等の手順確認を行った。また、利用者が水

害時の避難場所である青森県立保健大学へ移動することを想定し、避難通用口前までの避難誘導訓練も実施した。

(6) 口腔ケアの充実

令和3年度は、口腔ケアマニュアルを整備し、口腔機能チェックシートを用いた口腔ケアアセスメントで対象利用者を抽出し、歯科治療や園内での口腔ケアにあたった。

また、口腔機能の向上によって感染を未然に防ぐ目的で、嚥下体操指導を実施した。

3 職員の状況

	園長	推進監	課長	主任	副主任	支援員 事務員	看護師 栄養士	業務 補助員	専任 当直員	医師	計
総務課	1		(1)		1事務 1看護	2事務	1看護 1栄養		3	2	12
高齢者 支援課		1	1	2	1	6支援		2			13
計	1	1	1	2	3	8	2	2	3	2	25

4 利用者状況

(1) 入退所者数

① 定員	100人
② 令和2年年度末現在の利用者数	95人
③ 令和3年度内退所者数	10人
④ 令和3年度内入所者数	10人
⑤ 令和3年度末現在の利用者数	95人

(2) 市町村別入退所内訳等

	内訳	事由
入所 計10人	・青森市7人 ・弘前市2人 ・野辺地町1人	・在宅者6人 ・病院退院者1人 ・施設移行者3人
退所 計10人	・青森市10人	・施設移行者3人 ・死亡者6人 ・触法施設者1人

(3) 介護認定状況等

(未認定)	要支援 1～2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護 4～5	計 (人)
(28)	12	26	21	6	2	67

(4) サービス利用状況

項目	サービス内容	利用人数 (重複計上)
外部サービス	デイ、ヘルパー、福祉用具	65人
内部サービス	ヘルパー、福祉有償運送	50人
計		115人

5 入所相談・見学状況

入所相談件数	93	他の相談件数	38	相談件数合計	131 件
見学件数	24	うち入所件数	10		

6 事業の実施状況

(1) 行事等

名 称	実施時期等	参加人数	備 考
各寮懇談会	月 1 回	延 538 人	
音楽療法	月 1 回～2 回	0 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため休止
観桜会	4/30	70 人	
3 B 体操	月 1 回	0 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため休止
自治会代表者会議	年 4 回	延 28 人	
コーヒーサロン	6/11、3/10	延 110 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により職員が対応
ビデオ上映	20 回	延 310 人	
出張販売 (6 業者)	週 1～2 回		※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を強化
お買い物イベント	中止		
利用者との集い (4 月)	4/1	51 人	転入職員紹介
自治会総会	4/1	64 人	
輪投げ大会	7/30	30 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため利用者と職員で実施
地域交流懇談会	中止	0 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止
納涼夏祭り	8/4	150 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため利用者と職員で実施
盆墓参り	8/5	6 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため利用者と職員で実施
敬老会	9/17	85 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため利用者と職員で実施
市内遊覧	4/19、4/20	22 人	
七日日ねぶた観覧	中止	0 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策及び、ねぶた祭り中止のため
ミニ運動会	10/17	30 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため利用者と職員で実施
リフレッシュ日帰り旅行	中止	0 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止
フレイルチェック	9/6～9/10	95 人	
文化祭	11/2	49 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため食事会と喫茶コーナーのみ実施
フレイル体力測定	12/15	95 人	
年忘れお楽しみ会	12/16	91 人	
新春お楽しみ会	1/6	84 人	
節分豆撒き	2/2	50 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を強化
物故者慰霊祭	中止	0 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を強化
まぐろ祭り	3/16	85 人	
利用者との集い (3 月)	3/29	65 人	※転出職員紹介
紙芝居	13 回開催	延 383 人	図書委員会フレイル予防

(2) クラブ活動

名 称	実施回数	参加者数	備 考
茶道クラブ	2 回	延 12 人	※新型コロナウイルス感染状況を見極めでの実施
華道クラブ	10 回	延 49 人	※新型コロナウイルス感染状況を見極めでの実施
書道クラブ	0 回	0 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため休止
チェアヨガ	0 回	0 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため休止
園芸クラブ	14 回	延 67 人	花壇・フレイル NO 園整備、リース作成
大相撲星取りクラブ	年 6 回	延 96 人	

カラオケクラブ	3回	延 38人	
---------	----	-------	--

(3) 地域交流

団体等名称	交流内容	実施時期	備考
虹ヶ丘町会	虹ヶ丘町会夏祭り	中止	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止
北赤坂町会宝寿会	利用者交流会 (輪投げ大会)	中止	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止
自由ヶ丘老友ほのぼの会			

(4) 保健衛生

内 容	実施時期等	人数等	備 考
身長測定	年 1回 4/15	全員	
血圧・体重測定・検温	月 1回	全員	
入浴	週 3回	全員	男性：月・水・金 女性：火・木・土
通院（村上病院他）	週間計画表により実施	対象者	
結核健診	4/2	92人	
春・秋の基本健診 (理学的検査・尿・血液・心電図)	5/13	91人	
	11/5	91人	
ヤクルト出前講話	10/28	30人	
歯科検診（前期）	4/14、4/21、4/28	77人	
歯科検診（後期）	10/6、10/13、10/20	85人	
歯科衛生指導	中止	0人	年4回は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止
内科問診及び インフルエンザ予防接種	11/18	88人	嘱託医
嘱託医による医療相談	月 2回	対象者	内科
嘱託医による診察	月 1回	対象者	精神科
感染症対策委員会	4回		
春の大掃除	6月		窓・網戸清掃等
秋の大掃除	12月		暖房・各居室清掃等

(5) 防災訓練及び安全対策

内 容	実施時期等	参加人数	備 考
交通安全教室	5/28	25人	
夜間想定防災訓練	7/15	76人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、地域防災協力隊は、不参加
夜間防災訓練	3/24	76人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、利用者と職員で実施
災害時炊き出し訓練	11/5	65人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、利用者と職員で実施
風水害訓練	11/5	46人	青森県立保健大学避難通用口前へ避難

※ 新型コロナウイルス感染症対策により、安生園利用者及び職員での訓練とした。また、開催時期についても、青森市の状況を見ながらの実施となった。

(6) 交流・ボランティア

① 交流（慰問）

団体等名称	内 容	実施時期等	備 考
株式会社番地銘石	ねぶた運行・園内展示	7/27～8/4	すこやか苑と合同で運行
ねぶた囃子菱友会他	ねぶた運行・納涼夏祭り	8/4	

※ 青森県立保健大学学生ワクチン接種期間により、ねぶた運行が不参加となった。

※ 例年交流していた幼稚園・保育園・短大など、事前の新型コロナウイルス感染症対策が難しい団体については、全て中止とした。

② 招 待

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止した。

③ ボランティア

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止した。

(7) 地域福祉関係

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止した。

(8) 職員研修関係

内 容	実施時期	参加人数	備 考
「救命講習」及び「誤嚥時の対応」	中止	0 人	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止
介護保険研修	8/25	20 人	講師：三上主任介護支援専門員
高齢者施設等における感染症発生時対応研修	9/30	20 人	講師：川崎副主任看護師
利用者支援理解促進研修	11/11	12 人	講師：芙蓉会病院 村上拓也院長
虐待防止と権利擁護	1/26	17 人	講師：東部包括 佐藤祐亮氏
安生園職員研究発表会	12/15	29 人	

(9) 苦情解決事業関係

内 容	実施時期等	備 考
第三者委員相談	月 1 回	※8、9、12 月のみ申込みあり開催した。 申込みの無い月は、新型コロナ感染拡大防止予防対策のため中止した。
苦情解決協議会	年 4 回	※7 月開催、10 月・1 月中止、3 月書面開催

(10) 実習・実務研修等受入

依頼元（実習内容）	受入期間	人 数
青森県立保健大学 1 年基礎演習	7/7、7/9	8 人
青森県立保健大学 3 年社会福祉演習	9/9	1 人
東北福祉大学援助技術実習	7/4～8/4	1 人
青森明の星短期大学介護福祉実習	9/1～9/27	1 人

※ 事前に 2 週間前からの健康状況や県外への移動制限等の感染対策を講じてもらった上で、受入れを実施した。

(11) 食品ロス軽減活動

月 日	提供生鮮食品類	使用用途
4 月 26 日（月）	◎野菜類 （白菜、キャベツ、ほうれん草、人参、ジャガイモ、里芋、青梗菜、等） ◎フルーツ類 （バナナ、キウイ、リンゴ等） ◎キノコ類 （椎茸、しめじ、えのき、なめこ等）	安生園・すこやか苑に入所する方々への食事提供食材や、おやつとして提供し活用した。
5 月 31 日（月）		
6 月※コロナ感染症対策で中止		
7 月 5 日（月）		
8 月 9 日（月）		
9 月 13 日（月）		
10 月 18 日（月）		
11 月 22 日（月）		
12 月※大雪により中止		
1 月※コロナ感染症対策で中止		
2 月 7 日（月）		
3 月 14 日（月）		

※ コープフードバンクは、品質には何ら問題のないもののやむなく廃棄されてしまう食品を、支援を必要とする福祉分野の施設・団体に無償で寄贈し、食べられる食品を有効に活用する活動である。安生園でもこの趣旨に賛同し定期的に食品の提供を受け、利用者の方々への食事提供へ有効活用している。

Ⅱ ヘルパーステーションあんじょう

1 概要

サービス利用実績は、昨年度実績を上回る結果となった。要介護利用者数は、前年比延べ471人増、収入では2,464千円増となった。また、介護予防利用者数は、前年比209人増、収入で472千円増となり、合計2,936千円の増収となった。安生園利用者の潜在ニーズに着目しサービス提供につなげたことが要因となった。

福祉有償運送事業においては、収入が前年比8千円減となった。また、介護保険外サービスである福祉タクシーは、稼働率増加により収入が前年比12千円増となり、収入は全体で前年比4千円増となった。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

年間平均契約数は58人と目標である65人には届かなかったが、安生園内でサービスを利用されている方の高齢化が進み、サービスの追加等ニーズは高まった。

令和3年度は職員の欠員なく安定しており、事業所内研修を毎月実施したほか、外部研修にも可能な限り参加し、各職員のスキルアップを図った。

3 職員の状況

職名	管理者兼サービス提供責任者	サービス提供責任者	訪問介護員	計
人数	1	1	9	11

4 事業の実施状況

(1) 訪問介護・介護予防訪問介護事業

合計		訪問介護		予防介護	
延利用人数(人)	請求書発行額(円)	延利用人数(人)	請求書発行額(円)	延利用人数(人)	請求書発行額(円)
7,374	25,483,709	6,711	23,604,039	663	1,879,670

(2) 福祉有償運送事業

	福祉タクシー	介護タクシー
走行距離 (km)	375.9	3,672.4
利用人数 (人)	48	1,210
輸送回数 (回)	47	1,267
収入 (円)	81,900	417,900
収入合計 (円)		499,800

Ⅲ 居宅介護支援センターあじょう

1 概要

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため新規利用者獲得のPR活動は実施できず、外部利用者の訪問やカンファレンスを工夫して業務にあたることとなった。

令和2年度から育児休業者の補充ができず、年度開始から主任介護支援専門員を含む介護支援専門員3人体制となり、特定事業所加算Ⅱを取得できず、加算取得単位数の減少となった。

また、3人体制に加えて新型コロナウイルス感染症によるサービス利用者減少や契約者の死亡などもあり、前年度比延べ1,187人に対し1,107人と80人減となり、居宅介護支援費では152千円の減収となった。

研修会等も、主催者団体等が感染状況をみながらの計画となり、主にZoomを活用してのリモート研修などの受講と、毎週開催する内部定例会議の事例検討等で、職員の資質の向上に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

今年度は、職員配置による事業所の実務能力と欠員補充がなされなかったことにより、要支援者のケアマネジメントを休止し、要介護者のケアマネジメントを集中して行った。欠員職員の担当利用者を3人の介護支援専門員が分担してケアマネジメントの継続と経営維持に努めた。

(2) 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症の影響で、外部研修を受講する機会が少なかったものの、毎週の定例会議を利用して「介護保険法」等の制度理解と事例検討会を繰り返すことにより、職員の資質向上ができた。

3 職員の状況

職名	管理者 (主任介護支援専門員)	介護支援専門員	計
職員数	1	3 (うち1名育休含む)	4

4 事業の実施状況

合計		居宅介護計画		予防介護計画		認定調査	
延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (円)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行 (円)
1,107	18,761,910	1,107	18,761,910	0	0	0	0

第4 障害者総合福祉センターなつどまり

1 概況

障害者総合福祉センターなつどまりの運営にあたり、「基本理念」のもと、利用者一人ひとりの人格・人権を尊重し、その人らしい豊かな人生を自己実現できるよう利用者や家族等の思いに寄り添った支援に努めてきた。令和3年度は、法令遵守の徹底と権利擁護の推進を強化するとともに、利用者が生きがいを持って、楽しく安心して快適に日常生活や社会生活を営むことができるよう取り組んだ。

また、経営基盤の安定を図るため、介護報酬改定を踏まえ、国の福祉政策による見直しや変更を適確に把握しながら、利用者及び人材の確保に積極的に取り組み、適正かつ効率的な財務管理に努めた。

新型コロナウイルス感染症予防対策の一つであるワクチン接種の2回分については、65歳以上の方には6月に、そして65歳未満の方及び職員については8月初旬までに済ませ、さらに3回目については2月初旬に済ませた。それ以外の新型コロナウイルス感染予防においては、消毒や3密回避など万全の予防対策に注力し、行事の小規模化や面会や外泊の縮減・制限、これに伴う利用者の新しい生活様式への対応に努めた。

また、新たな事業として、平内町地域生活支援拠点事業における相談機能（必要なサービスのコーディネーターや相談等）を担い、従来の相談支援事業とともに取り組んだ。

人材確保については、離職や産休・育休などによる欠員のため、積極的に職員募集を行ったものの、補充できず課題は継続となった。一方、働きやすい職場環境の整備として、管理者等との定期的な面談、エルダー制度に基づく人材育成、メンタルヘルス、職員の健康管理の把握等に努めた。

施設整備については、建替えから10年目となり、経年劣化による給湯器や給水ポンプ等の故障や不具合が多く、修繕費の支出が増えた。修繕計画による修繕の実施のみならず、コロナ禍やウクライナ危機による燃料・原材料を始めとする物価上昇が見込まれ、節電やコスト管理も課題となった。

2 重点事項の実施状況

(1) 感染症の持込みや拡散防止の徹底

① 日常の感染症対策の徹底

手洗い・うがい・手指消毒等のほか、非接触検温器を活用した毎日の検温、体調確認とともに、同居家族等の感染把握、県外移動後の出勤困難休暇取得等の対応をしながら感染予防に努めた。

② 新型コロナウイルス予防ワクチン接種等の推進

産業医の協力を得て、職員、利用者、委託業者も含めた希望者全員が3回目のワクチン接種を終えることができた。

③ 感染者発生時の旧館活用及び備蓄、備品の管理徹底

感染者発生時や宿泊所として旧館を利用する際の各種物品の確認や補充、また、簡易トイレや消毒・衛生用品（マスク・防護服など）等の確保とともに、抗原検査キットも購入し、在庫管理を徹底した。なお、発生時に備え、物品と鍵の保管場所についても明確にした。

(2) 人材の育成及び定着

人事評価制度の運用を通じた人材の育成として、評価のフィードバックを含めた定期的面談や業務の進捗状況の把握と助言を行い、職員の育成と定着に努めた。採用1年目から3年目の離職率は0%であった。

(3) 生活支援サービスの充実及び生活支援環境の整備

家族との面会（オンライン面会）の工夫や行事の小規模化とともに、移動販売等の活用、個別活動としての調理実習の定例的開催、介護食としてソフト粥を試行する等、生活様式の改善に努めた。

(4) 職員の健康管理と労務管理の徹底

① 活気あふれる職場づくり（挨拶の励行、笑顔での対応の徹底、5 S運動（整理・整頓・清掃・清潔・整容））の推進

四半期ごとにテーマを決め、ポスターの掲示や朝会等で周知徹底し、職員への意識付けを図るとともに、職場環境の改善に努めた。

② 総実労働時間の短縮（休暇の取得促進と時間外勤務の縮減）

年次有給休暇5日に加え、リフレッシュ休暇の取得推進と業務の効率化により時間外勤務の縮減に努めた。ただし、年度途中で人材不足が発生した部署については、業務量が過多となり時間外勤務が増加した。

③ 労災事故0件を目指す

労災事故は、日中活動作業中1件、利用者支援中3件、敷地内巡回中1件で計5件発生した。特に利用者支援中の事故等については、リスクマネジメントをして再発防止に努めた。

3 職員の状況

所属 (職員数)	所長	寮長	課長	主任	副主任 支援員・看護師	支援員	看護師	事務員	栄養士	運転員	専任 当直員	合計
総務課	1		1					2	2	1	3	10
しらかば寮		(1)	2	1	6	41						50 (1)
さつき寮		1	1		4	21	2					29
合計	1	1 (1)	4	1	10	62	2	2	2	1	3	89 (1)

※嘱託医は除く。

※所長はしらかば寮長を兼務する。

※さつき寮副主任支援員・支援員に相談支援事業所分を含む。

4 職員研修

新型コロナウイルス感染症予防対策により、令和2年度と同様に外部研修受講の機会は少なかったが、オンライン研修は必要に応じて適宜受講した。職場内研修会（虐待防止研修、感染症予防研修等）や研究発表会についても、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じて計画的な取組を実施し、福祉サービスの質の向上及び職員の資質向上を図った。

また、職員個々の資格取得研修（サービス管理責任者研修、強度行動障害研修等含む）を推奨し、人材育成に努めた。

5 健康管理

健診や癌検診（30歳以上の女子利用者には子宮癌検診、20歳以上の女子利用者には乳癌検診、40歳以上の利用者には胃癌及び大腸癌検診）を実施するとともに、嘱託医（精神科）や医療機関、並びに家族とも連携しながら、疾病の早期発見及び早期治療に努め

た。

新型コロナウイルス感染対策を最優先とし、3回目のワクチン接種を実施した。

従来の感染症予防対策としては、インフルエンザワクチンの予防接種、手洗い、うがい等に加え、マスク着用、3密回避、検温等により、職員を含めた予防対策を強化徹底するとともに、正面玄関には顔認証機能付き検温器を設置し体調管理に努めた。

6 食 事

食事は施設生活における大きな楽しみの一つであることから、食堂内の装飾を工夫したりBGMを流したりするなど、家庭的な雰囲気の中で楽しくゆっくりくつろいだ食事ができるよう配慮した。

季節の食材を取り入れた多彩な献立（新メニュー等）や暦行事に合わせた行事食等の提供に努めたほか、利用者の嗜好、身体状況（咀嚼能力等）に配慮しながら、様々な食事形態や食事場所を準備して個別の対応を行った。また、ソフト食の導入に向けてソフト粥の試行を行った。

特に、しらかば寮においては栄養ケア・マネジメントを継続して実施し、利用者の栄養・健康状態の維持に努めた。

7 安全・防犯・防災対策

(1) 安全・防犯対策

- ① 利用者の安全確保を最優先として、安心・安全な日常生活が送れるよう、事故等の未然防止のための施設設備の保全に努めた。
- ② 事故発生時の迅速な対応と職員間の連携強化のために各種マニュアルの周知徹底を図るとともに、アクシデントレポート等の速やかな報告と、検討内容による対応策を講じた。
- ③ 外部からの不審者等の侵入に対する危機管理の観点から、「危機管理体制マニュアル（不審者対応）」の作成及び周知徹底を図るとともに、不測の事態を想定した不審者等に対する防御用具の使用方法及び対応・実技について警察官の協力を得て訓練を実施した。

(2) 災害対策

- ① 新採用者及び転入職員等に対し、消火器や防災監視盤の使用方法など非常時に対応できるよう防災教育を行った。
- ② 消防計画に基づいた消防訓練の実施及び水害・土砂災害を含む非常災害時に備え土砂災害を想定した避難訓練を実施するなど、利用者誘導體制の強化に努めた。
なお、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、避難場所を分散し、例年地域防災協力隊と共に実施していた消防（避難）訓練や炊き出し訓練は中止した。
- ③ 非常時の備蓄食品（水・食材）として、常時3日分を確保し、保管についても衛生面や場所を考慮し、危機事象発生時に備えて点検・確認を行った。

8 実習・ボランティアの受入れ

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、実習受入れを始め施設見学や実習体験は最小限の受入れに留まった。

また、なつどまり祭の行事は中止とし、外部との交流をできる限り避けた施設内だけの小規模な行事開催としたため、ボランティアの受入れも行わなかった。

9 地域社会との連携

地域住民との連携や交流促進におけるボランティアの受入れや地域行事への参加、当センターで開催した研修会への地元住民の参加の受入れは、新型コロナウイルス感染症予防対策のため実施しなかった。

なお、共生社会の実現と社会貢献に積極的に取り組む必要があることから、平内町地域自立支援協議会、平内町健康・福祉推進協議会及び地域ケア会議等へは引き続き積極的に参画し、地域の福祉ニーズを把握しながら地域との連携を図った。また、令和3年度は、平内町地域生活支援拠点事業における相談機能を受託し実施した。

第4-1 障害者支援施設しらかば寮

I 施設入所支援事業・生活介護事業しらかば寮

1 概況

令和3年度においては、寮の「基本理念」の下、利用者の人権尊重と権利擁護の推進、個々の有する能力及び適性に応じ自立した日常生活や社会生活が営めるよう支援の充実に努めた。

特に利用者の重度化や高齢化が進み、介護ニーズや医療ニーズが高くなっていることから、それぞれの支援においては利用者にあったペース、体力、安全などに配慮し実施した。また、身体状況の変化や機能低下が著しい利用者には、迅速に医療機関と連携しながら適切な対応に努めた。

しかし、令和3年度は1人の利用者が医療機関入院中に亡くなり、また2人の利用者が常時医療を必要とする状態となったため退所した。

新型コロナウイルス感染症予防対策においては、高齢の方、基礎疾患を持つ方が多く、しかもマスク着用や3密回避などの感染症対策を取れない状況にあることから、まずは職員側がより一層の危機感を持ち、感染症を持ち込まないよう感染防止対策に重点的に取り組んだ結果、感染者の発生に至ることなく過ごすことができた。

また、家族及び外来者を制限するとともに、行事等の中止や延期、実施可能なものについても規模を縮小するなどして対応した。

経営状況については、長期入院者が増えたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、利用者が帰宅等できなかつたことから、平均利用率96%を維持することができた。一方で補修箇所が増えたこと、施設内防犯カメラの更新をしたこと、また、コロナ関連の備品備蓄を充実させたことなどにより支出が増え、収益の落ち込みにつながった。

面会については、オンライン面会を開始した。また、一時的ではあるが感染状況を考慮してガラス越し面会や個別面会を再開した。

面会や不要不急の外出を自粛していることに伴い、利用者のストレス軽減や余暇の充実のため、グループでの外出や買い物外出（ハンバーガーや牛丼など食べ物の持ち帰り）などを実施し、10月～3月まで延べ25回、94人の利用者が参加した。そのほかにも、移動販売やデリバリー（クレープ、カフェ）の受入れを2度実施した。

2 重点事項の実施状況

(1) 重度・高齢利用者に対する支援の充実

- ① 行動障害を有する利用者への支援の充実のため、発達障害者支援センターのコンサルテーションを3回実施した。そのほか、強度行動障害支援者養成研修については、今年度青森県主催研修には1人、岩手県主催の研修（リモート）にも2人参加し、適切な支援と専門性を高め、個別支援の充実に努めた。
- ② 高齢利用者支援関係では、認知症タイプ別ケア研修や認知症介護基礎研修等については介護事業所が優先となり受講決定されなかつたが、安生園主催の利用者理解促進研修に4人の職員を派遣し、支援の質の向上を図った。
- ③ 医療面では、健康診断のほか、定期的な健康観察を通して、嘱託医等と連携を図りながら予防と治療に努めた。食事面では、栄養マネジメントにより健康面や栄養状態の維持とともに、嚥下機能が低下した利用者に対する取組について栄養士を交え医療機関とのカンファレンスを行い、個々の食形態などに合わせた食事を提供し

た。

(2) 人材の育成及び定着

- ① 外部研修については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、リモートでの研修など可能な範囲で参加した。また、また、新任職員に対しては、引き続きエルダー制度、DVDを使用した育成プログラムに則った取組を実施したほか、動画配信研修が多くなってきたことから、タブレット端末を活用し、寮内での視聴が可能な体制を整えた。
- ② ICT・介護機器については、支援記録システムと連動したバイタル測定機器の活用を行った。また、国際福祉機器展のオンライン会場や介護ロボット展示会を通じて、ICT・介護機器の情報収集やデモ機の受入れを行い、導入に向けた検討を行った。
- ③ 業務の効率化及び職員の負担軽減のため、つるホーム（女性）への遅番勤務を継続したほか、寮会議や朝の打ち合わせを中止した。
- ④ 小規模な職員のユニット制を効率的に運営するため、支援記録システムを活用した会議の効率化を図った。

(3) 生活支援サービスの充実

- ① 利用者の権利擁護の一環として虐待防止の取組や、災害時や感染症発生時の事業継続についてマニュアルを策定した。
- ② 日中活動の充実を図るため、リサイクル活動、レクリエーション等の活動を定期的実施した。また、コロナの関係で面会や帰宅等を制限したこともあり、代替行事として買い物やドライブ、レクリエーションなどの行事を計画的に実施し、単調な生活に潤いをもたらすよう工夫した。
- ③ コロナの関係でアニマルセラピーやヨガ体操は実施できなかったが、音楽療法は1回実施した。

(4) 生活支援環境の整備・向上

面会については、6月よりオンライン面会を導入し、8人の方が延べ39回利用した。また、感染状況を踏まえ10月から1月20日までは、ガラス越し面会及び個別面会を18家族延べ34回実施した。感染症防止対策として、手洗い、手指消毒、3密回避などを強化したため、風邪等の感染症での通院は少なかった。

- ① 介護食（ソフト食）導入に向けた取組として、ソフト食や粥ゼリーの試食等を実施し今後の参考とした。
- ② 居住棟の見直しについては、設備等ハード面のほか、勤務体制や活動の内容、同性介護に対する方向性を定める必要があり、令和4年度に持ち越した。
- ③ ノーリフティングケア（持ち上げない、抱え上げない介護）の実践として、理学療法士を招き勉強（体験）会を実施した。

3 利用者の状況

(1) 入退所の状況

内 容	生活介護	施設入所
定 員(人)	80	80
令和2年度末現在利用者数(人)	80	80
令和3年度内退所利用者数(人)	3	3
令和3年度内入所利用者数(人)	2	2
令和3年度末現在利用者数(人)	79	79

(2) 年齢別利用者数

男女別 年齢別	一課（一般棟）			二課（高齢者棟）			合計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
10～19	2		2				2		2
20～29	6	4	10	1		1	7	4	11
30～39	8		8				8		8
40～49	5	5	10	2		2	7	5	12
50～59	1	4	5	4	2	6	5	6	11
60～69		7	7	13	2	15	13	9	22
70～79	1		1	2	6	8	3	6	9
80以上				1	3	4	1	3	4
合計(人)	23	20	43	23	13	36	46	33	79
平均年齢(歳)	35.3	48.7	41.5	60.7	69.0	63.4	48.0	55.9	51.2

(3) 障害支援区分別利用者数

男女別 障害支援区分別	一課（一般棟）			二課（高齢者棟）			合計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
非該当									
区分1									
区分2									
区分3				1		1	1		1
区分4	1	1	2	1	3	4	2	4	6
区分5	9	6	15	12	4	16	21	10	31
区分6	13	13	26	9	6	15	22	19	41
合計	23	20	43	23	13	36	46	33	79

4 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

主に日中に入浴、排泄、食事等の介護や、創作的活動、身体機能や生活能力の維持・向上のために必要な支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し支援目標の達成に向けた支援を実施した。特に、身体機能の低下に起因する転倒、転落、誤嚥等のリスク軽減に配慮した支援を行った。

② 班編成による創作的活動、リサイクル活動の実施

ア 生活リズム班

ADL等の自立度により、年間個別支援計画に沿った支援を行った。体力維持及び健康面に配慮しながら、屋内外の歩行、ライトコートでの日光浴、リズム遊び、体育館で遊具を使用して身体を動かした。また、個別のニーズ把握に努め、一人ひとりの特性や趣向に応じて音楽鑑賞、創作的活動、リサイクル活動、調理体験等を行った。

イ 介護予防班

利用者のADLや障害特性に配慮し、健康体操、個別リハビリ、趣味活動のほか、外部講師による音楽療法を行いストレスの軽減に努めた。

③ 健康衛生の向上

ア 生活習慣病の予防と対策

利用者の高齢化に伴う生活習慣病とともに、行動の低下による廃用症候群等の出現への対応が課題となってきた。特に糖尿病、脂質異常を発症する人が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩や間食の取り方を見直し、生活習慣病の予防に努めるとともに、毎月体重測定と運動の励行を行った。

イ 医療状況

嘱託医診療

精神科（青森県立つくしが丘病院）月2回（第2、第4水曜日）

ウ 検診状況

対象者 全員

検診内容 血液検査、心電図(年2回)、結核検診、尿検査(年1回)
各癌検診(大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ実施)

エ インフルエンザ予防対策

インフルエンザワクチンを接種するとともに、抗菌マスク、微粒子マスク、使い捨て予防衣、使い捨てキャップ、使い捨てシューズカバーを準備し、うがい、手洗いの励行、アルコール手指消毒器の使用、マスク装着の指導、換気、大型加湿器による環境整備を行い、予防対策に努めた。

オ 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、新型コロナウイルスワクチンを接種希望する利用者及び職員へのワクチン接種を3回実施した。

面会の制限を実施し、施設に入る業者に対しては検温(37.5℃以上は入室不可)と手洗い、うがい、アルコールでの手指消毒、マスクの装着を徹底し感染対策に努めた。職員も出勤時に検温(37.5℃以上は勤務不可)と手洗い、うがい、アルコール消毒、マスクの着用を義務付けた。

また、新型コロナウイルス感染症発症時の対応セット(N95マスク、保護メガネ、保護用予防衣、シューズカバー、使い捨て手袋、アルコール除菌タオル)を常備するとともに、全職員に対し対応セットの着脱研修を実施した。

カ その他の感染症対策

手指消毒器を一課、二課に設置して手指の消毒を指導したほか、毎食後に食堂のテーブル、椅子、手すり、ドアノブ等を除菌ウエットタオルで消毒し、食中毒などの感染症予防を強化した。

感染性胃腸炎の予防と蔓延防止対策として、発症時対応セット(バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、ゴミ袋、使い捨てマスク、使い捨て手袋、使い捨て予防衣、使い捨てシューズカバー、処理マニュアル)を各棟に用意し、感染症マニュアルに則った感染予防に努めた。

キ 通院状況

区分 科別	通院状況		服薬者状況
	実人員	延回数	実人員
内科	52	507	38
精神科	58	730	56

耳鼻科	6	16	0
歯科	25	167	0
皮膚科	5	13	0
外科	7	24	1
整形外科	14	124	6
眼科	3	4	0
泌尿器科	6	68	4
脳神経内科	1	3	0
合計	177	1,656	105

ク 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病名
内科	3	141	急性肺炎、誤嚥性肺炎
脳神経科	1	95	脳梗塞
内分泌科	1	26	胆管炎疑い、尿路感染
精神科	3	687	心因反応、広汎性発達障害、統合失調症
消化器内科	1	3	PEG交換
耳鼻科	1	4	慢性副鼻腔炎
合計	10	956	

④ 音楽療法の実施（実施日・場所）

ア 個人セッション（月1回 月曜日の午前：面談室）

一課利用者1人 実施回数1回

イ グループセッション（月3回 火曜日の午前：二課食堂）

※新型コロナウイルス感染症状況を考慮し、1月に個人セッションのみ開催し、その他は全て中止した。

⑤ チェアヨガ活動

身体機能の活性化を図るため、チェアヨガの講師を月2回招く予定であったが、新型コロナウイルス感染症防止対策として活動を中止した。

実施回数0回

⑥ 個別及びグループごとの外出の支援

買物・外出体験を通して、金銭の使い方、社会のルール、マナーを学んでもらうとともに、新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、個別・グループで楽しい時間を過ごす事を目的に実施した。

(2) 施設入所支援事業(居住系サービス)の実施状況

居住の場を提供し、入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談のほか、生活介護等の日中活動と合わせて支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し支援目標の達成に向けた支援を実施した。

② 余暇活動・趣味的活動等の充実

ア 個別及びグループごとの外出の支援

新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、青森市、平内町、野辺地町を中

心にドライブ外出等を計画し実施した。また、個別外出については希望に応じて買物、テイクアウト等を随時実施した。

イ 招待外出

新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。

ウ 外部講師による活動の支援

書道 実施日：月2回（第2、4金曜日）18:30～19:30

※新型コロナウイルス感染症防止のため活動を中止した。

③ 生活環境の整備

ア リネン・寝具交換

平成24年度から、外部業者と寝具の賃貸借契約を締結している。シーツ等1回/週、タオルケット・肌掛けカバー1回/月、布団カバー1回/月、掛け・敷き布団1回/年の交換を行った。

イ 洗顔用具等の洗浄、管理

歯ブラシ、コップ、洗面器等を週1回消毒・洗浄し、個々の収納棚に保管するなど、衛生管理に努めた。

ウ 居室等の大掃除

各居室内、食堂の換気扇及びエアコンフィルターの掃除、ライトコートの大掃除を年2回実施した。その他、春の大掃除と年末の煤払いを計画的に行った。委託業者による特別清掃は年6回実施した。

エ 室温等の管理

冬期間の乾燥対策として各ホームに加湿器等を設置し、湿度の調整を行った。

(3) 利用者の権利擁護の推進

① 苦情相談システムの利用促進

苦情件数は0件、相談件数は3件だった。苦情ではなく不安、相談を述べる内容であった。

苦情内容	件数
サービスの質や量 (食事内容、サービス提供に関する不満など)	0
利用者間の人間関係など	0
職員の対応(態度、言葉づかいが悪いなど)	0
被害/損害(預り金、所有物の紛失など)	0
権利侵害(虐待、プライバシー侵害など)	0
生活環境(設備など)	0 (相談1)
病気/怪我/医療面	0 (相談1)
その他(上記以外のもの)	0 (相談1)
合計	0 (相談3)

② 利用者への情報公開・情報提供の充実

掲示板の活用や口頭での情報提供を行った。また、写真やパンフレット等を活用し、利用者に分かりやすい方法を採用した。

(4) 地域交流

新型コロナウイルス感染症防止のため、地域交流を兼ねた行事等は全て中止とした。

(5) 家族との連携

利用者が心豊かな生活を営むためには、家族の理解と協力が不可欠である。しかし、新型コロナウイルス感染症防止のため、ガラス越しの面会や夏冬の一時帰省の中止、外

出等の自粛をしたことにより、家族との関係が疎遠になりがちな面もあったことから、電話や手紙、写真等を利用した触れ合いの機会を増やした。また、オンライン面会を導入した。

① 利用者個別支援計画

個別支援計画については、その内容を家族と十分協議しながら設定した。また、支援目標や支援経過についても電話や書面等を通じて随時家族へ説明した。

② 保護者全体懇談会

新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。

(6) 利用者の安全面の確保

利用者等の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るため、毎月リスクマネジメント委員会を開催し、アクシデントレポート等の検証や対策を話し合い、支援会議等で職員へ周知した。

事故内容		アクシデント 件数	インシデント 件数
医療関係	急病（救急車搬送等）	0	0
	誤嚥・喉つまり	0	3
	誤薬	2	2
	服薬忘れ	23	25
事故関係	転倒・転落・衝突	145	54
	骨折、打撲、裂傷	40	6
	異食	0	7
	無断外出	0	1
利用者関係	他害	67	7
	その他	46	95
合計		323	200

(7) 職員研修

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の全国的なまん延により、多くの研修が中止や延期、オンライン形式に変更となる中、計画的に法人内外の各種研修に参加した。人数制限のかかる中、強度行動障害基礎研修に3人参加するとともに、外部関係機関と連携（コンサルテーションの利用、理学療法士による介護技術研修）を図り、障害の理解と介護技術の習得に繋げた。しかし、事業計画にもあった青森県認知症介護基礎研修については受講決定されず、参加には至らなかった。

また、なつどまり内での職員研修として、救命講習会や虐待防止研修会、感染症予防研修会、不審者対応の研修会等を開催し、実践に役立つ知識と技術の修得に努めた。

なつどまり合同研究発表会においては、日頃の支援の研究成果を発表（4題）し、そのうち1題が青森県保健医療福祉研究発表会に選定されるなど、更なるサービスの向上を目指し取り組んだ。

(8) 行事の実施状況

内 容	実施期間	参 加	備考(行先など)
外出（ドライブ、買物）	4月25日	一課6人	テイクアウト（マクドナルド青森東バイパス店）
バスドライブ	4月28日	二課19人	夜越山
花見会	5月7日	一・二課	しらかば寮食堂
外出（ドライブ、買物）	5月25日	一課3人	青龍寺

外出（買物）	6月3日	二課2人	マックスバリュ平内店
外出（買物）	6月4日	二課2人	マックスバリュ平内店
外出（買物）	6月7日	二課2人	マックスバリュ平内店
外出（ドライブ）	6月13日	一課6人	テイクアウト（すき屋青森間屋町店）
外出（ドライブ、買物）	6月15日	一課2人	雷電宮、マックスバリュ平内店
外出（買物）	6月15日	二課2人	マックスバリュ平内店
たのしみっこ（BBQ）	6月18日	一・二課	旧館正面玄関前
外出（買物）	6月22日	一課2人	サンロード青森
外出（買物）	6月22日	二課2人	マックスバリュ平内店
外出（ドライブ）	6月27日	一課6人	テイクアウト（モスバーガー）
七夕会	7月7日	一・二課	しらかば寮食堂
外出（買物）	7月8日	二課2人	マックスバリュ平内店
外出（買物）	7月9日	二課3人	マックスバリュ平内店
外出（買物）	7月15日	二課3人	マックスバリュ平内店
外出（買物）	7月16日	一課1人	イオン青森店
外出（買物）	7月16日	二課2人	マックスバリュ平内店
外出（買物）	7月19日	二課2人	マックスバリュ平内店
外出（ドライブ）	7月23日	一課6人	青森浜田周辺、ゆ～さ浅虫
外出（ドライブ、買物）	7月25日	一課3人	テイクアウト（ピザハット小柳店）
バスドライブ	8月11日	二課17人	青い海公園
外出（買物）	8月12日	一課2人	昭和大仏、ラセラ東バイパス
外出（ドライブ）	8月15日	一課6人	テイクアウト（プティボヌール）
納涼会	8月20日	一・二課	しらかば寮ライトコート
外出（ドライブ）	8月22日	一課2人	テイクアウト（ミスタードーナツ青森ラセラショップ）
外出（ドライブ）	8月22日	一課7人	テイクアウト（スシロー観光通店）
外出（買物）	8月26日	一課3人	マックスバリュ平内店
外出（ドライブ）	8月31日	二課2人	夏泊半島
調理実習	9月11日	一課	ホットケーキ
外出（ドライブ）	9月19日	一課3人	テイクアウト（ミスタードーナツ観光通店）
長寿を祝う会	9月24日	一・二課	しらかば寮食堂
調理実習	9月25日	一課	カップケーキ
外出（ドライブ）	9月26日	一課7人	テイクアウト（ピザハット小柳店）
外出（ドライブ）	10月10日	一課5人	テイクアウト（銀だこイオン青森店）
外出（買物）	10月21日	二課1人	ラセラ東バイパス店
外出（買物）	10月22日	二課1人	ラセラ東バイパス店
調理実習	10月23日	一課	チョコバナナ
外出（ドライブ）	10月24日	一課4人	テイクアウト（ジークフリート戸山店）
外出（ドライブ、買物）	10月25日	一課3人	日光院、マックスバリュ平内店
外出（ドライブ）	10月25日	一課2人	テイクアウト（ミスタードーナツ青森ラセラショップ）
ハロウィン	10月29日	一・二課	しらかば寮食堂
外出（買物）	10月30日	一課2人	マックスバリュ平内店
外出（ドライブ）	10月30日	一課2人	夏泊半島
外出（ドライブ）	10月31日	一課2人	夏泊半島

外出（買物）	11月5日	二課1人	ラセラ東バイパス店
たのしみっこ	11月6日	一・二課	しらかば寮食堂
バスドライブ	11月8日	二課19人	野辺地町常夜灯公園
外出（買物）	11月8日	二課1人	ラセラ東バイパス店
調理実習	11月13日	一課	ギョーザ
調理体験	11月14日	二課	チョコバナナプリン
外出（ドライブ）	11月14日	一課7人	テイクアウト（ドラゴンカフェ）
外出（ドライブ）	11月24日	一課5人	テイクアウト（かつ屋青森西バイパス店）
調理実習	11月27日	一課	サンドイッチ
外出（ドライブ）	11月28日	一課1人	ゆ～さ浅虫
外出（ドライブ）	12月19日	一課4人	テイクアウト（ピザハット小柳店）
クリスマス会	12月23日	一・二課	しらかば寮食堂
外出（ドライブ）	12月26日	一課4人	KFC ラセラ青森東バイパス店
初詣ドライブ	1月5日	一課2人	日光院
新年会	1月7日	一・二課	しらかば寮食堂
外出（ドライブ）	1月16日	一課5人	テイクアウト（モスバーガー青森佃店）
調理実習	1月22日	一課	明石焼き、ベビーカステラ
外出（ドライブ）	1月23日	一課5人	テイクアウト（たい夢佃店）
節分	2月3日	一・二課	しらかば寮食堂
調理体験	2月11日	二課	チョコフォンデュ
外出（ドライブ）	2月20日	一課4人	テイクアウト（かっぱ寿司東バイパス店）
調理体験	2月26日	二課	焼き芋パフェ
外出（ドライブ）	2月27日	一課4人	テイクアウト（肴ダイニング心）
桃の節句	3月3日	一・二課	しらかば寮食堂
カフェ体験	3月12日	一・二課	しらかば寮食堂
外出（ドライブ）	3月13日	一課3人	テイクアウト（ドラゴンカフェ）
調理実習	3月19日	一課	フレンチトースト
外出（ドライブ）	3月20日	一課5人	テイクアウト（サーティワン浪館店）
外出（ドライブ）	3月21日	一課3人	テイクアウト（すたみな太郎）
外出（買物）	3月25日	一課2人	ミニストップ浅虫店
外出（買物）	3月26日	一課2人	原別稻荷神社、ローソン

Ⅱ 短期入所事業しらかば寮

1 概況

在宅で生活している障害者の介護を行う者の疾病、その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者等に対して、空室があった場合のみサービスを提供し、入浴・排泄及び食事の介護、その他必要な支援を行う短期入所事業であるが、新型コロナウイルス感染症防止対策として、今年度の利用実績はなかった。

Ⅲ 日中一時支援事業

1 概 況

平内町の地域生活支援事業として、在宅利用者の家庭の介護負担を軽減するため利用者に活動の場を提供し、見守りや社会に適応するための日常的訓練を行う事業であるが、新型コロナウイルス感染症防止対策として、今年度の利用実績はなかった。

第4-2 障害者支援施設さつき寮

I 施設入所支援事業・生活介護事業さつき寮

1 概況

令和3年度は、利用者の人権尊重・権利擁護・虐待防止について継続的に取り組むとともに、職員相互のリスクマネジメントの強化を図るため、寮内のリスクマネジメント委員会を中心に、各会議において段階的に対策の検討、周知徹底に取り組んだ。

また、行動障害を有する利用者への支援として、青森市における強度行動障害支援者養成研修への参加はできたものの、新型コロナウイルス感染症の影響から、その他の外部研修は大半をリモート研修での受講となり、当初研修計画の半分程に留まった。一方、内部における各種研修においては、DVDの活用や、リモートによる研修等で内容の充実を図った。

新規事業として実施した林産班での焚付用の薪生産については、納品先業者より出荷数量を制限されたことにより、収入は予定の半分以下であった。ただ、材料費等に係る経費も抑えられたことで、大幅な赤字には至らず、全ての作業班（4班）において、昨年度を上回る利用者工賃の支給に繋がった。

利用者状況としては、3月下旬まで入所利用者の入退所の変動はなく、収入面では安定的な施設運営となった。

行事においては、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、昨年度と同様に利用者の安心・安全を第一優先に、対外的（外部者等含む）な行事を自粛するとともに、寮内における各行事を充実させながら、少しでも潤いを持っていただくよう取り組んだ。

また、家族関係では、今年度も面会日を中止したことに伴い、6月からリモートによる面会を実施した。ガラス越し面会については10月から再開したが、12月末の全国及び県内における感染拡大の状況から実施を制限し今日に至っている。一時帰省についても、利用者、保護者等の了承を得て、一年を通して中止とした。

このようなことから、代替行事として、感染状況を確認しながら青森市内及び平内町内の店舗等による買物外出等で利用者のストレス軽減に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 重度化・高齢化への対応

① 各種研修会への参加

感染状況を確認の上、適宜職員を外部研修及びリモート研修に参加させ、専門的知識の習得及び資質向上に努めた。

② 法人内施設（しらかば寮）実地研修

重度、高齢者の生活支援に必要な知識・技術の習得を目的に、しらかば寮での実地研修（5人）を行い、職員の養成・スキルアップを図った。

(2) 人材育成及び定着

① 新人職員育成プログラムの実施

育成プログラムに沿った支援技術のDVDを視聴し、知識の習得に努めた。また、エルダー制度の活用や内部及び一部外部研修の受講で支援業務等の理解促進を図り、人材育成の強化に努めた。

② ICT・介護機器の活用に向けた検討

なつどまり全体の取組として、サーモフレイズ(皮膚赤外線体温計)と「ほのぼのシステム」に連動する「バイタル(ケアパレット)」を4月から導入し、データ管理

が可能となった。

今後においても、職員の負担軽減に向け機器等の導入に着手できるよう検討を重ね取り組んでいく。

(3) 生活支援サービスの充実

① 日中活動の再編成に向けた検討及び見直し

4班体制で行っている日中活動(作業)について、利用者へ活動内容等の見直しの意向を確認したところ、現状どおりの作業内容で活動したいとの意見が大半を占め、今後も現状どおり実施することになった。また、作業に乗れない利用者には作業場所への移動時間を調整し、更には趣味的活動を提供するなど、活動参加の意欲向上に努めた。

② 余暇時間の充実

毎日夕方に行っている介護予防運動の実施や、個人の活動(折り紙、ぬり絵、模型作成)等を支援しながら活動ニーズを柔軟に汲み取り、生きがいや生活意欲の向上など一定の効果が確認された。

③利用者の健康状況把握と体調変化時の迅速な対応

サーモフレーズ(皮膚赤外線体温計)によるバイタル(ケアパレット)システム導入で利用者の健康状況をスムーズに把握できるようになった。ただ、体調不良時による報告ルート及び初動体制が不明確であったことから、フローチャートを作成し、職員へ周知を図るなど、利用者の安心・安全を確保するための環境整備に努めた。

3 利用者の状況

(1) 入退所の状況

内 容	施設入所	生活介護
定 員(人)	60	60
令和2年度末現在利用者数(人)	60	62
令和3年度内退所利用者数(人)	3	3
令和3年度内入所利用者数(人)	1	1
令和3年度末現在利用者数(人)	58	60

(2) 年齢別利用者数

年齢区分	入所利用者		通所利用者		合計
	男	女	男	女	
10～19					
20～29	6	3			9
30～39	10			1	11
40～49	8	6			14
50～59	4	2	1		7
60～69	9	4		1	14
70～79	3	2			5
80～以上		1			1
合計(人)	40	18	1	2	61
平均年齢(歳)	45.1	51.2	47.3	45.2	48.0

(3) 障害支援区分別利用者数

障害支援区分別	入所利用者		通所利用者		合 計
	男	女	男	女	
非該当					
区分 1					
区分 2				1	1
区分 3	1				1
区分 4	18	4			23
区分 5	17	10	1		28
区分 6	4	4		1	8
合計 (人)	40	18	1	2	61

4 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

① 利用者のニーズに応じた個別支援の充実

日常生活に必要な支援については、本人の主体性及び自発性を尊重しつつ、毎月の会議等で利用者支援に関して話し合いを持ち、サービス管理責任者を中心に個別支援の充実を図った。

② 開所日の設定

休日開所日については、余暇活動（パラスポーツ・映画上映・カラオケ・調理実習等）を中心に実施した。

③ 班活動

ア ゆとり加工班

加工班から古紙の提供を受け、古紙選別等の軽作業を実施した。作業内容を固定せず流動的に選択できるようにするとともに、個別のスケジュール等を活用し個々の特性に配慮し、集中して活動に取り組めるよう努めた。

イ 加工班

作業意欲はあるものの歩行での移動が難しい利用者に対しては車での移動を行い、できる限り本人が希望する作業班で活動できるよう配慮した。また、年間を通して活動できるよう作業資材の確保に努めるとともに、作業工程を細分化し、より多くの利用者が積極的に参加できるよう取り組んだ。

ウ 林産班

焚付用薪の生産・出荷を通して、体力維持と併せて働く喜びを感じられるよう取り組んできた。作業開始前に職員と利用者により作業手順の確認を行った結果、利用者全員が作業工程を理解し、予定数量を出荷することができた。

エ クリーニング班

体力に自信はないが、衣類をたたむ事ができる利用者がクリーニング作業を行い、働く喜びを感じることで心の安定を図った。

また、なるべく一人の利用者に負担をかけず、利用者全員が同じ作業工程を行うことができるよう、職員がやり方を示しながら支援した。

(2) 施設入所支援事業（居住系サービス）の実施状況

① 夜間におけるサービス提供

入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談・助言のほか、必要な日常生活

上の支援を行った。

② 余暇活動の支援

個々の趣味や余暇活動への支援を行った。

(3) 健康管理

① 医療状況

利用者の健康管理については2人の看護師を中心に嘱託医等との連携を図り、疾病の予防と治療を適切に実施した。

緊急時対応として、応急手当マニュアル、緊急対応フローチャートを職員室、支援員室に備えるとともにAED(職員は全員AED講習受講済み)を食堂に備えた。また、誤嚥、のどつまり時対応用として、気道閉塞時フローチャートを食堂、支援員室に貼り、口腔吸引ノズル付き掃除機(掃除用とは別の掃除機)と吸引器を食堂に設置し緊急時の対応に備えた。また、各寮に医療一覧、感染症発症時対応マニュアル等を備え、利用者の健康管理に努めた。

疾病の早期発見、早期治療として、各癌検診(胃癌、大腸癌、子宮癌、乳癌)のほか、結核検診、心電図、血液検査を実施した。結核検診、心電図、血液検査は施設負担にて行い、各癌検診は希望を募り、係る費用は本人負担としている。

口腔ケアとして歯科医による往診での歯科検診を実施した。その他、歯周病、虫歯予防として食後の歯磨き指導、介助歯磨きを行った。

令和3年度は、外出時のマスク着用と帰寮後の手洗い、うがいの励行、注意喚起等により、インフルエンザの罹患者は出なかった。また、毎食後に除菌ウエットタオルで行う消毒清掃の継続等により、ノロウイルス、急性胃腸炎の発症者は出なかった。

新型コロナウイルスは、職員、利用者共に罹患者は出ていないが、新型コロナウイルス感染症対策として、施設内に入る業者には検温(37.5℃以上は入室不可)とアルコールでの手指消毒とマスクを着用し業務を行ってもらった。職員も出勤時に検温(37.5℃以上は勤務不可)とアルコール消毒後入館することとした。利用者は寮内での行事は密にならないように行ったが、一部の行事や外出については中止とした。また発症時対応セット(N95マスク、保護メガネ、フェイスシールド、保護用予防衣、ディスポキャップ、シューズカバー、医療用グローブ、アルコール除菌タオル(大、小))と新型コロナウイルス感染症対応マニュアル、フローチャート図、ゾーニング表を作成し備え、発生時に迅速に対応できるようにした。またコロナワクチンの接種は、ひきち内科に来寮していただき、高齢者は5月～6月、65才以下の方は7月～8月に1、2回目を行い、2月には全員が3回目のワクチン接種を行った。

なお、利用者の高齢化に伴い、生活習慣病の発病が増加傾向であるとともに、廃用性症候群の出現等対応が課題となってきている。特に脂質異常を発症する方が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩、間食のとり方を見直し標準体重に近づけることを目標に取り組んだ。

また、身体機能低下がみられてきた利用者の支援として介護予防運動を行った。

ア 嘱託医診療 対象者～全員

・精神科(つくしが丘病院) (月2回:第2、第4木曜日)

イ 検診 対象者～全員

・血液検査、心電図(年2回) ・結核検診(年1回)

・各癌検診(大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ本人負担)

ウ インフルエンザ予防対策 対象者～全員

季節性インフルエンザは今年度も職員、利用者共に罹患者は出ていないが、インフルエンザワクチンの接種(施設負担)、抗菌マスク、微粒子マスクを用意し、マスクの励行を指導した。うがい薬でのうがい、手洗い、アルコール手指消毒器の使用、換気、大型加湿器による環境整備を行い予防対策に努めた。また使い捨て予防衣、フェイスシールド、使い捨てキャップ、使い捨てシューズカバーを準備し発症時対応に備えた。

エ その他

手指消毒器をホームホールや廊下に設置して手指消毒指導し、毎食後に食堂のテーブル、イス、床、手すり、ドアノブ、スイッチ類を除菌ウエットタオルにて消毒清掃を行い、食中毒などの感染症予防対策を講じた。

発症時対応セット(バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、嘔吐物凝固剤、ゴミ袋、サージカルマスク、医療用グローブ、防護ガウン、防護キャップ、シューズカバー、処理マニュアル)を各棟に用意し感染症マニュアルに沿って感染予防に努めた。

② 各癌検診、結核検診の状況

検診名	要精密検査者	内 訳
胃 癌	1人	再検査し異常なし
大腸癌	5人	5人とも再検査し異常なし
子宮癌	0人	
乳 癌	0人	
結 核	2人	2人とも再検査し異常なし

③ 通院・服薬者状況

区分 科別	通院状況		服薬者状況
	実人員	延回数	実人員
内 科	32	260	19
精神科	40	512	39
歯 科	11	76	0
皮膚科	10	41	1
外 科	3	13	1
整形外科	6	19	1
眼 科	5	12	1
泌尿器科	2	24	2
脳神経外科	1	4	0
血液内科	1	2	0
循環器科	1	1	0
糖尿病外来	1	7	1
総合診療	1	15	1
歯科口腔外科	1	2	0
耳鼻科	3	8	0
婦人科	2	6	0
合 計	120	1,002	66

④ 入院状況

科別	区分	実人員	延日数	病名
精神科		2	167	適応障害、統合失調症
内科		1	1	心不全
外科		2	91	頸椎後縦靱帯骨化症、虫垂炎
合計		5	259	

⑤ 肥満状況

内 訳	男	女	合計
18.5 未満 (やせ)	4	2	6
18.5 以上～25 未満 (正常)	29	12	41
25 以上～30 未満 (肥満 1)	8	4	12
30 以上～35 未満 (肥満 2)	0	1	1
35 以上 (肥満 3)	0	0	0
合計 (人)	41	19	60

※BMIの数値は日本肥満学会による判定基準を基にした計算式で算出したものであり、内臓脂肪量とは関係ない。BMI = 体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))

(4) 利用者の権利擁護の推進

苦情相談は、本人からの申し出と施設内の意見箱から受け付けており、毎月1回、第三者委員3人の輪番による体制としているが、新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。

苦情解決協議会については内部職員だけで開催し、利用者代表、保護者代表、第三者委員に対しては事例の内容を書面で送付した。

令和3年度は、利用者からの苦情相談は1件あったが、障害者虐待防止法に準拠した「なつどまり虐待防止規程」における事案はなかった。

(5) 地域交流

令和3年度地域交流は、新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。また、地域への奉仕活動については、11月に開催された平内町民文化祭に利用者が創作した作品を提供し展示したものの、利用者の参加は新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。

(6) 利用者への安全確保

利用者の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るために、第一段階として支援会議で検討し、その後さつき寮リスクマネジメント委員会で再度検討することで、より深く検証した内容を現場へフィードバックし、利用者の事故防止に努めた。

<アクシデントレポートの提出状況>

事故内容		件数
医療関係	急病 (救急車搬送等)	
	誤与薬	2
	誤嚥・落薬	12
事故関係	転倒・衝突 (通院・入院)	1
	転倒・衝突	17
	その他	25
介護関係	転倒・衝突 (通院)	
	歩行不安定による転倒	29

外出関係	無断外出（敷地外）	1
	集団離脱（敷地内）	3
利用者関係	他害・粗暴行為・器物破損	13
その他	打撲・自傷・擦り傷・火傷等	10
合計		113

(7) 家族との連携強化

① なつどまり育成会との連携強化

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため育成会の総会を中止とし、会員の方へは書面で活動内容を報告した。また、面会については、6月からリモートによる面会を実施し、10月から個別によるガラス越し面会を再開したが、12月末の全国及び県内における感染拡大の状況から中止とし、今日に至っている。

② 家族への情報提供の充実

ガラス越し及び室内における個別面会の実施や中止の通知を随時行った。また、さつき寮通信を年4回発行し、3月には行事及び日中活動や生活環境の様子を写真や文章で伝えた。そのほか、毎月ケース担当職員から保護者へ近況をお知らせするとともに、状況変化等の際には随時連絡を行った。

(8) 職員研修

なつどまり内での学習会やしらかば寮での実地研修、法人内研修、県内外のリモートによる研修等に参加し、施設職員として必要な知識を習得したほか、支援方法等のスキルアップに努めた。

また、なつどまり研究発表会ではさつき寮の研究事例を発表した。

(9) 行事の実施状況

(令和3年)		
4月 14日	利用者健康診断	
4月 29日	花見会	
5月 13日	結核検診	
5月 29日	レクリエーション大会	
6月 8日	昼食外出	
6月 24日	消防訓練(火災想定)	
6月 25日	夏の大掃除	
6月 29日	昼食外出	
7月 16日	花火会	
8月 12日	ドライブ外出	
8月 14日	納涼祭	
9月 2日	総合消防訓練(夜間想定)	
9月 7日	利用者検診(胃がん)	
9月 11日	さつき交流会	
10月 7日	利用者検診(心電図、採血)	
10月 8日	利用者検診(乳がん)	
10月 23日	紅葉狩り	
11月 8日	インフルエンザ予防接種	
11月 10日	不審者対応訓練	
11月 26日	なつどまり研究発表会	
11月 27日	利用者忘年会	
12月 11日	冬の大掃除	
12月 25日	クリスマス会	
12月 31日	年越し会	
(令和4年)		
1月 2日	カラオケ大会	
1月 4日	お楽しみ会	
1月 8日	利用者新年会	

1月 15日	紅白歌合戦の鑑賞会
1月 22日	カラオケ大会
1月 29日	軽食クッキング
2月 5日	節分集会
2月 17日	防災訓練(土砂災害想定)
3月 8日	利用者日中活動慰労会

(10) 工賃支給状況

生活介護班活動に従事した利用者全員を対象に、「工賃支給要綱」に基づく工賃を支給した。(10月・4月は一時金を支給)

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	上期一時金
生活介護 総工賃(円)	132,670	128,710	156,600	150,370	125,090	132,530	153,520	230,520
支給者数(人)	62	62	61	61	61	60	60	62
項目/月	11月	12月	1月	2月	3月	下期一時金	合計	月1人当 たり平均
生活介護 総工賃(円)	119,030	125,770	114,920	104,650	115,660	696,910	2,486,950	2,922
支給者数(人)	60	61	60	60	60	61	851	

II 短期入所事業さつき寮

1 概況

自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行う。

2 事業の実施状況

令和3年度は1人の利用があった。

III 相談支援事業所なつどまり

1 概況

障害者及び障害児並びにその保護者一人ひとりの人権と意思を尊重し、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じた柔軟な相談支援を実施した。計画相談件数は計222件であった。

利用者の置かれている状況や環境等に応じた、利用者等の選択に基づいた適切な障害福祉サービス等を、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供し、地域資源との連携及び地域資源の開発を図るとともに、各市町村等との連携に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 関係団体との連携強化の継続

コロナウイルスの状況下から関係団体とは主に電話連絡等による継続的な情報共有に努めた。また、事業所等との利用者支援に関する打ち合わせや会議等においては、感染予防対策を講じ、双方の状況を確認の上、協議を重ねたことで連携が図られた。

(2) 利用者ニーズに向けた相談支援

利用者との面談・アセスメント等では、話しやすい雰囲気づくりに心掛け、より良いサービスに繋がるよう必要な助言等による対応に努めた。

また、感染予防対策を徹底の上、可能な限り自宅または事業所へ訪問し本人や家族の意見を確認することで、意向に沿う計画の提案・作成の充実を図った。

(3) 年間における黒字収支の維持

当初掲げた年間の計画及びモニタリングの件数と最終的な実績と比較し件数が増えたことで増収となった（計画：当初 117 件→実績 139 件、モニ：当初 332 件→実績 385 件）。また、支出においても予算精査に努めたことで黒字収支の維持に繋がった。

3 職員の状況 ※()はさつき寮兼務

職名	管理者	相談支援専門員		合計
		副主任支援員	支援員	
職員数	(1)	1	1	2 (1)

4 事業の実施状況

(1) 障害種別利用者人数（重複あり）

内訳	実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害	重症心身障害	他
障害者	226	196	37	27	21	0	0
障害児	3	2	1	0	1	0	0
合計	229	198	38	27	22	0	0

(2) 相談方法(実人員に対して重複あり)※なつどまり入所利用者の聴取数も訪問に加える

内訳	訪問※	来所	同行	電話	個別支援会議
件数	627	4	33	216	40

(3) 利用者別相談件数

内訳	しらかば寮	さつき寮 ※通所含む	同法人施設、事業所	他法人施設、事業所	合計
平内町（委託）	5	9	28	39	81
他市町村	69	49	20	10	148

(4) 計画相談請求件数

内訳	サービス等利用計画	モニタリング報告書	合計
請求件数	139	385	524

第5 青森県長寿社会振興センター

1 概況

本県の高齢化率は全国を上回る速さで進んでいるが、その8割は介護保険を利用しない“元気な高齢者”である。

その中で、全ての団塊世代が75歳以上の高齢者となる2025年が迫り、「高齢者が生きがいを持ち、介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる」ということがより重要な課題となってきている。

令和3年度も青森県長寿社会憲章の「すべての世代のための長寿社会」を念頭に、「生涯現役で活躍できる社会づくり」、「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」を目指し安心して元気にいきいきと暮らせる社会づくりの実現に向け、生きがいづくり、健康づくり及び仲間づくりに関する事業展開を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) あおもりシニアフェスティバルスポーツイベントでの新種目追加

新種目を2種目追加して開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。

(2) 文化イベントに代わる世代間交流イベント

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から集客型イベントは中止とした。代替行事として、事業団内児童施設利用者からスポーツイベント参加者へ向けた応援イラストを募集し、参加記念タオルの熨斗紙に掲載した。

(3) 長寿な生活調査発信事業の内容の充実・強化

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、対面での活動は自粛しながら調査・発信活動を継続できるよう新しい活動方法を提案し、テキスト作成等により内容の充実・強化を行った。

(4) シニアカレッジのコロナ禍での内容の充実とサテライト開催

街てくや社会見学など内容の充実を図ったが、新型コロナウイルス感染拡大により、一部中止や日程等を調整した。サテライト開催は西北五地区、八戸地区でシニアカレッジ講演のDVD視聴・運動等により開催した。

3 職員の状況

職名	所長 (専務理事兼務)	副主任 事務員	事務員	計(人)
職員数	1	1	7	9

4 事業の実施状況

(1) 高齢者のスポーツ、健康づくり及び地域活動等を推進する事業

① 第33回ねりんピック(全国健康福祉祭)派遣事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止とした。

② 第22回あおもりシニアフェスティバル(県健康福祉祭)開催事業

県内高齢者の文化活動、スポーツ活動等の祭典とし、健康増進、社会参加及び世代間交流の促進を図り、みんなが輝ける長寿社会づくりを目的として開催予定とされていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部競技のみの開催とした。

ア 世代間交流イベント

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止とした。

イ スポーツイベント（1種目）開催内容

開催日	令和3年5月16日（日）
会場	新青森県総合運動公園
内容	ソフトテニス
参加人数	7人

- ③ 第11回冬季スポーツイベント（スキー・カーリング）
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。

(2) 長寿な生活調査・発信事業

① シニアライター研修会

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、参加者の健康を第一と考え研修会の開催は中止とした。代替として、受講希望者及び認定シニアライターを対象に養成研修テキスト等の配布を行い基礎研修とした。

② シニアライターフォローアップ研修会

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、参加者の健康を第一と考え研修会の開催は中止した。認定シニアライター全員に「フォローアップ研修テキスト」を作成・送付し、認定後のフォローを行った。

③ 機関誌あすなろ倶楽部発行

通信員（シニアライター）等が収集した情報及び県内高齢者等への暮らしの情報提供等を紹介・広報し県民の健康意識の向上に役立てるため発行した。

発行回数	年4回（6月、9月、12月、3月）
発行部数	4,500部
内容	通信員（シニアライター）提供の長寿の生活スタイル等の情報及び関係機関等の情報発信。

④ 広報活動

当センターの事業紹介を行うため、パンフレットの作成を行った。ホームページの運営については、当センターの情報発信を強化するため、スマートフォンへの対応化を行い、より多くの方々に閲覧してもらえようホームページのリニューアルを行った。

パンフレット作製部数	5,000部
ホームページアドレス	http://www.choju-aomori.or.jp

(3) 青森シニアカレッジ運営

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催日程を調整し、通信コースの利用や自宅で取り組める介護予防テキスト等の配布を行った。

① シニアカレッジ講座

開催場所	県民福祉プラザ
開催回数	11回
受講者数	69人（総合コース）
内容	一般教養、健康と生活、地域歴史文化等
その他	コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催日程を調整した。

② 通信教養コース「あおもり長寿セミナー」

放送媒体	R A B 青森放送
放送回数	年間 12 回（毎月最終土曜日 6 時 30 分からの 30 分間）
内 容	生きがいにづくりに関わる内容をラジオ放送で県内へ発信した。 テキストを作成し学習意欲の向上に努めた。
受講者数	53 人

(4) 仲間づくり事業（自主事業）

① 元気なシニア総合サポート事業

仲間づくり支援相談員を配置し適切な指導及び助言を行い、健康づくり活動等を行うサークルの情報収集及び提供を行った。

② あすなろ友の会支援事業

高齢者自主活動組織「あすなろ友の会（会員数 700 人）」に対し、助言及び情報提供を行った。

(5) 介護予防事業

市町から事業受託し、高齢者が要介護状態もしくは要支援状態になることの予防を目的として実施した。

委 託 先	五所川原市、大鰐町
内 容	運動機能向上、栄養改善、口腔ケア、認知症予防、閉じこもり防止
そ の 他	コロナ禍での介護予防の取組として、通信型介護予防事業を実施した。

5 職員研修

職員の資質向上を図るため、一般財団法人長寿開発センター及び関係各機関の開催する研修会に参加した。

第6 青森県発達障害者支援センター

1 概況

当センターは、平成17年12月1日に現在の障害児入所施設八甲学園の附置施設として開設し16年目を迎えた。発達障害者支援センター運営事業の4つの柱である「相談支援」「発達支援」「就労支援」「普及啓発・研修」のほか、当センター独自の事業として、地域の精神科医師による「医療相談」及び、当センター事業で養成した「ペアレントメンターによる傾聴事業」を実施した。

また、「青森県発達障害者支援体制整備事業」についても、各事業計画に基づき実施。各事業とも、おおむね計画目標を達成することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2事業を中止とした。中止となった事業は下記のとおりである。

主催研修会	(1) 世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間 in 青森 (2) 家族対象研修会 in むつ 第2弾
-------	---

県内の複数の医療機関、自治体等と協働し取組んだ「青森県発達障害専門医療機関初診待機解消モデル事業」では、主に青森市、弘前市の就学前の幼児を対象とし、年間197人の申込みを受けた。令和3年度は新たな取組として、弘前大学及び青森県と協働で「青森県子どもの発達ガイドブック」を作成し、令和4年3月29日に刊行した。本ガイドブックはPDF版として県HP及び当センターHPより無料でダウンロードが可能な設定としたほか、県内全自治体及び保育園等関係機関に無償配布し、幅広く活用してもらう取組を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 地域の各関係機関等と連携、協働し、発達障害のある方及び家族を支援する

① 地域のお他機関との連携強化

・地域連絡協議会：1回開催。

参加機関を、東青地区及び下北地区の青年・成人期を主な支援対象としている機関とし、医療、保健、労働、福祉、教育、親の会、自治体等、15機関の参加があった。

・初診待機解消モデル事業検討会：2回開催。

本事業連携医療機関、青森県教育庁、青森市及び弘前市教育委員会、青森市及び弘前市障がい福祉課、青森市及び弘前市母子保健課、県障害福祉課、県内発達障害者支援センター、児童発達支援事業所等、17機関の参加があった。

・医療相談：7件実施。

・ペアレントメンターによる傾聴事業：5件実施。

・職員の専門性の向上を目指し、計30回（各職員5回以上）の発達障害に関する専門研修会を受講した。

② 個人情報保護の徹底

・第三者と情報を共有することが必要な際、事前に個人情報同意書を必ず得ることを徹底した。

・相談者記録等を保管する書庫の管理（施錠・鍵の管理）、書類及びデータの取扱い等、対応策をまとめ、職員間で徹底した。

(2) 県内3か所ある発達障害者支援センター間で協働し、県内の発達障害支援体制整備を促進する

① 年2回（5月、12月）3センター及び県障害福祉課との情報交換会を実施した。

② 県内発達障害者支援センター職員を対象とした勉強会を実施した（7月、12月、3月）。

- (3) 地域の関係機関及び関係施設等の職員の人材育成を通じた地域の拠点作り
- ① 東青地区、下北地区で人材育成を目的とした支援者対象研修会（主催）を、計 21 回開催した。実施した主な事業は下記のとおりである。

ア	アセスメントに関する研修会	(13 人受講)
		(未達成 目標：20 人以上)
イ	CAREプログラム研修会	(12 人受講)
	※コロナのためWEB開催とした。WEB開催では、定員を 12 人のみとする本プログラム規定に基づき実施した。	
ウ	発達障害支援公開講座	(330 人受講) ※WEB開催
エ	かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会	(58 人受講) ※WEB開催
		(うち医師 22 人受講)
オ	発達障害支援連続勉強会	(37 人受講) ※一部WEB開催
カ	ペアレントメンター養成研修事業	(13 人受講)
キ	ペアレントメンターフォローアップ事業	(17 人受講)
ク	ペアレントメンター登録	(31 人登録)
ケ	ペアレント・プログラム事業	(5 人受講)
 - ② 講師活動を 35 回実施した。
司法・教育・福祉・労働等、多様な機関のニーズに対応した。
 - ③ 機関訪問支援を 22 回実施した。
保育園・幼稚園・小学校、特別支援学校・放課後等デイサービス・生活介護事業所等、多様な機関のニーズに対応した。
 - ④ 医療従事者を主な対象とした研修会を 1 回実施した。
県内医師（小児科医・精神科）と協働し、県内医師等医療従事者を主な受講対象者とした発達障害に関する最新の知見、施策等を発信した。
 - ⑤ 各地域で研修事業を開催する際、自治体及び地域の関係機関へ事業協力依頼を行い、協働で事業を実施した。
- (4) 地域住民への発達障害についての理解と普及啓発
- ① 世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間はコロナにより中止とした。(未達成)
- (5) 北海道・東北ブロックをはじめ、全国の発達障害者支援センター等との連携
- ① 全国発達障害者支援センター連絡協議会（WEBにて開催）へ職員 2 人参加した。
発達障害児者支援施策に関する国の動きや、最新の知見について学ぶとともに、全国の発達障害者支援センターと情報交換を実施した。
 - ② 東北ブロック職員研修会及び北東北 3 県発達障害者支援センター情報交換会では、本事業主催担当を務めた。研修会では全国から 97 人の受講があった。※WEB 開催。
情報交換会では、北東北 3 県の取組について情報共有し、連携を深めた。
 - ③ 当センターで主催する研修会（WEB研修会）について、北海道・東北ブロック等に都度周知を行い、他県発達障害者支援センター職員の受講があった。情報発信及び情報共有に務めた。
- (6) その他
- ① 青森県発達障害専門医療機関初診待機解消モデル事業

ア	青森市 108 人、弘前市 89 人、計 197 人の事業申込があった。 連携医療機関、各自治体、県、教育委員会、保育園、相談支援事業所、療育機関等、関係機関と協働しながら事業に取り組んだ。
イ	本事業の取組を認められ、東洋館「特別支援教育研究」への記事掲載依頼を

受け、弘前大学大学院医学研究科神経科精神科と共著にて執筆活動を行った。

② 青森県子どもの発達ガイドブック刊行

弘前大学及び県と協働し、発達障害に関する知識、具体的な対応方法のほか、国の制度や本県の情報を豊富に取り入れた当県オリジナルのガイドブックを作成した。本ガイドブック編集委員を県内全域より、医療、保健、福祉、教育、有識者、親の会等と多様な領域で構成し取り組んだ。県ホームページ及び当センターHPから情報をダウンロードできるほか、全自治体及び全保育園等関係機関に配布する等、県内全域で広く活用いただく体制を整えた。

3 職員の状況

職名	所長	副主任支援員	支援員	計
職員数	1	1	2	4

4 事業の実施状況

事業内容		実績	
① 発達障害児（者）及びその家族等に対する相談支援・発達支援	実支援人員	1,272人	
	延支援件数	2,504件	
	心理学的判定	163件	
② 発達障害児（者）に対する就労支援	実支援人員	104人	
	延支援件数	147件	
③ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	ア センター主催又は共催で企画した研修	実施回数	20回
		延参加人数	775人
	イ 外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	実施回数	35回
		延参加人数	1,115人
	ウ 教育関係者との合同研修会	実施回数	7回
		延参加人数	504人
④ 関係施設・関係機関等の連携	ア 連絡協議会開催回数	実施回数	3回
	イ 調整会議	実施回数	25回
	ウ 機関コンサルテーション	実施回数	22回
	エ 障害者総合福祉法第89条協議会等への参加状況	参加回数	0回
	オ 他の協議会への参加状況	参加回数	15回
⑤ 地域住民等に対する普及啓発	パンフレットの作成	実施回数	1回
⑥ 職員の研修派遣状況		参加回数	30回

第7 ライフサポートあおば

1 概況

「共感・協働・共生」の理念に基づき、知的障害や発達障害、またはそれらが心配される児童が地域で当たり前に暮らし続けることを目指した。青森市内やその近郊の3歳から18歳までを主な対象児として、障害児通所支援（児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・保育所等訪問支援事業）と青森市からの委託事業（障害児等療育支援事業）等を通じて、青森市及びその近郊の児童支援・家族支援・地域支援を行った。

コロナ禍のため、外出行事の中止、集合式研修への派遣控え、保護者懇談会や外部研修のリモート開催など、適宜対応することとなった。

経営面では、新型コロナウイルス感染拡大を懸念した利用自粛及び営業中止、職員の離職等に伴う配置加算の減もあり、収入は減った。

法人内・所属内での情報共有・サポート体制を構築し、体制強化を図った。

2 重点事項の実施状況

(1) 支援の強化・標準化

① 個別化の視点

各事業所にて、ライフステージに応じた「発達チェック」のツールを定めた。

② 支援効果の測定

課題分析等の評価を実施し、「できること」が個別・集団で可能か測定し、このやり方の定着を図った。

③ 支援効果の情報共有と引き継ぎ

保護者面談等で、写真・映像を含む支援データを提示し、支援効果について保護者と情報共有を行った。職員間では、課題分析等を用いてミーティングやケースカンファレンス等で情報共有を行った。

(2) 保護者向け交流会の設定

保護者間、職員との意見交換・情報共有を目的として、6月9日に保護者懇談会をリモート開催した。参加者が限定されたが、コロナ禍での対応など、意見交換を図った。

(3) 地域のニーズに沿ったイベントの開催

5月21日及び6月21日に地域向けイベント検討委員会を実施した。コロナ禍であったため、イベントの開催には至らなかった。事業所機能の還元をイメージし、地域との協力体制構築について議論した。

(4) 新規児童受入マニュアルの運用と見直し

令和2年度に検討したマニュアル・「新規受付票」を運用した。受入れ経過がわかるよう修正を図った。

(5) 総収入額を前年度比3%向上

前年度比では契約者数が大幅に増えたが、新型コロナウイルス関連の利用自粛及び令和3年度報酬改定による基本報酬の減、年度途中の離職者による配置加算の減があり、総収入額が減少した。

3 職員の状況

職名	所長	主任事務員	主任支援員	副主任支援員	支援員	計
職員数	1	1	1	2	13	18

4 職員研修

(1) 内部研修

① 教育・指導体制

ライフサポートあおばの「スーパービジョン体制」について書面にて周知した。これに基づき、個別面談、会議、ミーティング、直接支援場面でのスーパービジョンを実施した。また、職員個々に年間目標管理を行い、所属長面談にてその達成度を確認した。

② 内部研修

当初は各事業所の実態に合わせた研修を計画していたが、新型コロナウイルス感染防止観点から外部研修派遣を制限したこともあり、3事業所の職員を対象に合計7回内部研修を実施した。

研修名	日 程	参加者数
年度当初研修 ～障害福祉概論と職員の役割～	4月22日	3人
支援技術基礎研修① ～発達とその連続性について～	5月24日	4人
支援技術基礎研修② ～構造化と再構造化について～	6月10日	5人
支援技術基礎研修③ ～コミュニケーション支援とレッスнтаイプ～	7月16日	4人
防災研修	9月8日	4人
リスクマネジメント研修	10月28日	4人
支援技術実践研修	11月15日	5人
虐待防止研修	1月31日	4人
個別支援計画作成研修	2月21日	3人

③ 研究発表

各事業所にてテーマを選定し、11月25日に行われた八甲学園あおば合同研究発表会にて、法人職員向けに発表した。また、同内容を12月18日に行われた青森県保健医療福祉研究発表会にてリモート発表した。

ア デイサービスセンターあおば

「信頼のおける事業所・魅力のある事業所」

イ デイサービスセンターすこやか

「新規利用児童のアセスメント情報とその活用」

ウ チャレンジサポートすこやか

「就労事業所への移行に必要なこと」

(2) 外部研修

コロナ禍により、外部への派遣を最小限とした。派遣された研修については、復命書作成ののち、毎月の支援会議にて伝達を行った。

研修名	日 程	参加者数
相談支援従事者養成研修指導者養成研修	6月24日	1人
相談支援従事者研修（講義部分）	9月10日 ～9月24日	2人
安全運転管理者研修	11月26日	1人

支援者スキルアップ研修	12月2・3日	1人
PECSレベル1ワークショップ	12月7日 ～1月18日	4人
強度行動障害支援者養成研修（実践）	1月18・19日	1人
青森県知的障害者福祉協会人権倫理委員会研修会	2月21日	3人

※法人内主催実施研修を除いて記載

5 行事

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の行事を中止とした。

●ぷちあおば（5月・10回） ●地域交流会（9月予定）

行事名	実施日	内容
運営会議	毎月	各種課題やリスク回避の検討（リモート開催）
HP・ブログ更新	随時	活動内容報告。移転による掲載内容更新
苦情解決・虐待防止委員会	10月19日	苦情等解決委員・虐待防止委員との情報・意見交換（リモート開催）
広報誌発行	4月1日 10月1日 2月21日	「あおばだより」第29号 「あおばだより」第30号 「あおばだより」第31号
ぷちあおば	7月6日 9月9日 11月11日 12月9日	参加児の行動観察及び簡易検査（アセスメント） 参加児の行動観察及びコミュニケーション支援 参加児の行動観察・コミュニケーション支援、および製作活動 参加児の行動観察及び小集団活動
非常通報訓練	2月19日	ライフサポートあおば非常通報連絡体制
事業所間交流	11月26日	就労サポートセンターさつき見学・作業体験
合同研究発表会	11月25日	八甲学園主催に参加。あおばから3事例発表

6 健康管理

新型コロナウイルスの感染予防のため、感染予防対策の通知等を毎月の運営会議・支援会議などで周知した。マスク・手指等消毒液・保護用予防衣・フェイスガード等を用意し、使用についてのマニュアルを作成し、ロールプレイを実施した。また、感染症予防マニュアルの見直しに取り組んだ。

法人指導の看護技術基礎研修（DVD視聴）、ハラスメント防止研修を受講し、その内容を復命すること、職場の保健室制度を周知することで、職場衛生に努めた。

7 安全・防災管理

(1) リスクマネジメントについての検討

毎月の支援会議・運営会議内において、前1か月で報告のあったインシデント及びアクシデントについて内容を確認し、未然防止策・再発防止策等について検討した。

(2) 自主点検・法定点検

各事業所にて担当者が使用物品（建物・支援備品・消防設備・車両等）の危険箇所自主点検を月1回行い、発見箇所の修繕及び修繕困難箇所を報告した。

消防設備の法定点検は、設備業者に委託し、年2回実施した。

(3) 月1回の避難訓練実施

各事業所で毎月1回、テーマに沿った避難訓練を実施した。実施報告の反省点を、次回の避難訓練に反映させた。

月	訓練内容	月	訓練内容
4月	火災発生	10月	火災発生
5月	感染症	11月	感染症
6月	風水害被害	12月	地震発生
7月	地震発生	1月	不審者侵入
8月	火災発生	2月	地震発生
9月	風水害被害	3月	火災発生

8 ボランティア・実習等の受入れ

青森県立保健大学・青森大学・岩手県立大学・NHK学園より実習生12人を受入れた。なお、受入れにあたっては、新型コロナウイルス侵入を防止するため、養成校に誓約書を求めるなど、細心の注意を払った。

9 地域との連携

青森県障害福祉課及び青森県社会福祉協議会から県内障害福祉支援者向け研修会等の講師依頼があり、延べ13日間講師派遣をした。

また、相談支援事業所圏域会議への講師派遣や、青森県自立支援協議会人材育成部会の委員及び青森県知的障害者福祉協会の役員として会合に参加した。

加えて、対面・リモート等でのサービス担当者会議や要保護児童対策地域協議会に参加する等、相談支援専門員や併用する関係機関との情報共有・連携の模索・役割分担等の確認を行った。

地域の発達が気になる未就学児を対象とした「ぶちあおば」を開催し、登録者6人、延べ11人の利用があった。

I デイサービスセンターあおば

1 概況

発達支援を必要とする児童（主に発達障害児）を対象に、アセスメントを行い、本人の特性と発達段階に沿った個別支援計画を作成した。日常生活において自ら気づき、行動できるための支援を行った。

インクルーシブな社会実現のためにも、保育園等との併用児を受け入れ、訪問や電話でのやり取りを通して、関わり方について提案するなどして連携体制を構築した。また、他事業所との協力体制のもと、保育園等への送迎を開始し、利用児童の確保に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 契約者数27人以上の達成

指定障害児相談支援事業所と連携し、新規利用児童募集を行った結果、契約者数は27人となった。（延べ利用人数も137件増となった。）

(2) アセスメント実施における事業所内での共通理解

事業所内で実施するアセスメント内容の共通理解を図るためのマニュアル（案）を作成し、利用開始前児童（新年度利用児含む）のアセスメントに活用した。

(3) アクシデントの減少

職員の事故防止意識と対応力の向上を狙い、月1件以上のヒヤリ・ハット報告を目標とし、支援会議でのインシデント情報の共有及び対応策の検討を行った。午後のミーティングで情報を共有した。また、ハード面での危険個所についても、支援中はメモと応急処置を行い、児童帰宅後に補修・修理した。アクシデントは、前年度（23件）と比較して減少した（14件）。

3 利用児童の状況

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
児童発達契約者数(人)	21	21	21	22	23	23	23	25	25	26	26	26	
営業日数(日)	21	18	22	20	19	14	21	20	20	19	18	20	232
延べ利用人数(人)	190	171	217	195	177	134	208	202	193	178	150	162	2,177
放課後等デイ契約者数(人)	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	
営業日数(日)	21	18	22	20	19	14	21	20	20	19	18	20	232
延べ利用人数(人)	7	7	7	5	5	6	4	3	3	3	4	3	57
保育所等訪問契約者数(人)	4	4	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5	
延べ利用人数(人)	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6
延べ利用人数合計(人)	199	179	225	201	183	140	212	205	196	181	154	165	2,240

4 事業の実施状況

(1) 定 員

10人（児童発達支援・放課後等デイサービス合わせて）

(2) 概 要

① 児童発達支援事業

集団活動としてテーマを設け、毎月のイベントを実施した。また、季節の行事として、外出・遠足等を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。保護者見学会と卒園式に関しては、時間や形式を変え、密にならないように調整して開催した。日々の支援では、それぞれの児童の理解度や発達段階に合わせ、コミュニケーション・適切な行動についての支援を行った。

② 放課後等デイサービス事業

個々の児童に応じた個別支援計画を基に、個別セッションを行い、コミュニケーション・身辺自立・IADL等の支援を提供した。

③ 保育所等訪問支援事業

園の了解が得られた契約児の保育園へ訪問した。担任と面談し課題の確認をした上で、行動観察、支援の提供を行った。終了後、担任への助言・指導を行った。

職員配置上、派遣職員を増やすことが困難となったため、所属内他事業所へと連携し、保護者同意のもとで移行した。

5 行 事

行事名	実施日等	内 容
支援会議	毎 月	各種課題やリスク回避の検討。 ケースカンファレンスの開催。

避難訓練	毎 月	テーマに沿った訓練の実施。
遠 足	—	新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止。
保護者見学会	11 月	年長児 3 家族参加。(日時をずらして実施。)
卒園式	3 月 28 日	5 家族参加。(ほか 1 家族は本人のみ参加。)
	3 月 30 日	1 家族参加。
各種レクリエーション		
ゲーム	14 回	季節のゲーム
音 楽	16 回	季節の音楽
製 作	11 回	季節の製作活動
外遊び	8 回	外出 (水遊び含む)
おやつ作り	9 回	

II デイサービスセンターすこやか

1 概 況

青森市やその近郊に住む発達支援を必要とする主に小学生を対象に、本人のニーズ(発達段階・特性・生活環境など)に沿った支援計画を作成し、さまざまな活動や環境設定から、お子さんの発達や自立を促した。事業所での活動提供と並行して、家庭や他機関への支援(家庭支援・機関連携・移行支援)を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 利用児童に対する発達支援の充実

発達段階・指示理解・興味関心についての情報を得るため、専用シートを活用した。保護者と面談を実施し、支援効果の情報共有や家族の要望を確認した上で個別支援計画の作成につなげた。ケースカンファレンスでは支援計画について職員間で情報共有した。

(2) 積極的な新規児童受入体制の構築

相談支援事業所を中心に電話での問い合わせやモニタリング時に事業所の空き状況の情報発信をした。14 人の児童保護者、関係機関から新規利用希望の相談を受け、見学対応を行い、事業内容の説明、ニーズを確認した結果、6 人の新規児童受入に繋がった。

3 利用児童の状況

契約者の内訳は、総契約者 29 人中、小学生が 29 人(100%)、また、青森第二養護学校在籍児が 25 人(86.2%)、特別支援学級等在籍児が 4 人(13.8%)であった。

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約者数(人)	27	27	27	27	27	27	26	26	26	26	26	27	
営業日数(日)	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	14	20	236
授業終了後利用(人)	124	200	247	173	65	233	205	195	180	136	135	136	2,029
学校休業日利用(人)	105	0	0	57	147	0	16	23	29	63	8	62	510
延べ利用人数(人)	229	200	247	230	212	233	221	218	209	199	143	198	2,539

4 事業の実施状況

(1) 定員

10人

(2) 概要

小・中学生向け放課後等デイサービスとして、個別の配慮事項に合わせた活動を提供した。指標該当児が多く在籍することから、環境設定と介入方法について支援技術を高め、児童の健全な発達と自立を促した。

5 行事

行事名	実施日等	内容
支援会議	毎月	各種課題やリスク回避の検討。 ケースカンファレンスの開催。
内部研修	毎月	支援会議前にミニ研修を開催。
避難訓練	毎月	テーマに沿った訓練の実施。
地域ボランティア	毎週	近隣のゴミ拾い・美化活動などを実施。
イベント週間	夏季2週間	ゲーム・製作・奥野中央公園散策など。
	冬季1週間	調理・ゲーム・製作など。

Ⅲ チャレンジサポートすこやか

1 概況

青森市やその近郊に住む発達支援を必要とする児童を対象に、本人のニーズ（発達段階・特性・生活環境など）に沿った支援計画を作成し、さまざまな活動や環境設定から、お子さんの自立を促した。事業所での活動提供と並行して、家庭や他機関への支援（家庭支援・機関連携・移行支援）を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 成人期事業所の体験利用

高校卒業後の進路選択を幅広いものにすること、成人期に必要なスキルのアセスメント機会を得ることを目的とし、11月26日に利用児童5人、保護者2人、職員3人で就労サポートセンターさつきの見学及び体験利用を実施した。

(2) 移行支援の実施

移行後の生活を想定し、移行前にすべきことを加えた個別支援計画を作成し、学校及び移行機関と共有する移行支援会議を4ケース実施した。

(3) 介護ニーズの高い利用児童へのカリキュラム作成

介護ニーズの高い利用児童を受け入れ可能にすることを目的とし、身辺自立や意思疎通、意思決定支援のための研修を支援会議内で行い、カリキュラム化し、職員に周知した。

3 利用児童の状況

契約者の内訳は、総契約者29人中、小学生が5人（17%）、中学生が6人（21%）、高校生が18人（62%）、また、青森第二養護学校在籍児が19人（66%）、青森第一高等養護学校在籍児が9人（31%）、特別支援学級等在籍児が1人（3%）であった。

また、令和3年度から開始した保育所等訪問支援では、未就学児4人が契約し、延べ

19回の利用があった。

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
放課後等デイ契約者数(人)	25	25	25	27	27	27	27	26	26	26	26	29	
営業日数(日)	20	18	22	20	14	20	21	20	20	19	18	20	232
授業終了後利用(人)	142	191	211	171	76	227	197	211	183	148	194	129	2,080
学校休業日利用(人)	72	0	0	55	70	0	8	20	30	65	9	91	420
延べ利用人数(人)	214	191	211	226	146	227	205	231	213	213	203	220	2,500
保育所訪問契約者数(人)						0	2	3	4	4	4	4	
延べ利用人数(人)						0	2	4	4	3	2	3	18
延べ利用人数合計(人)	214	191	211	226	146	227	207	235	217	216	205	223	2,518

4 事業の実施状況

(1) 定員

10人

(2) 概要

① 放課後等デイサービス

発達支援を必要とする児童を対象にして、個別の配慮事項に合わせた活動を提供した。強度行動障害加算対象児も複数人在籍するため、細かな環境設定と介入方法について支援技術を高め、作業・生活スキルの定着を狙い、さらには将来の生活に必要な情報の整理と移行支援を行った。

② 保育所等訪問支援

園の了解が得られた契約児の保育園へ訪問した。担任と面談し課題の確認をした上で、行動観察、支援の提供を行った。終了後、担任への助言・指導を行った。

5 行事

行事名	実施日等	内 容
支援会議	毎月	各種課題やリスク回避の検討。 ケースカンファレンスの開催。
内部研修	毎月	支援会議前にミニ研修を開催。
避難訓練	毎月	テーマに沿った訓練の実施。
地域ボランティア	毎週	近隣のゴミ拾い・美化活動・雪かきなどを実施。
イベント週間	夏季2週間	買い物外出・調理・製作など。
	冬季1週間	調理・ゲーム・製作など。

IV 障害児等療育支援事業

1 概況

青森市より当事業団が「障害児等療育支援事業」の委託を受け、ライフサポートあおばにて担当した。令和3年度はコロナウイルス感染等の影響もあったが、「ぷちあおば」の開催などもあり、依頼件数が増えた。

2 利用状況

事業内容	件数
訪問による療育指導	29件
外来による専門的な療育相談・指導	26件
療育技術の指導	84件

＜令和2年度の実績＞

「訪問による療育指導 12件」

「外来による専門的な療育相談・指導 14件」

「療育技術の指導 77件」

第8 就労サポートセンターさつき

1 概況

当事業所の理念である「地域社会と協調し、創造力豊かなサービスをとおして、働く喜びを分かち合います」に基づき、就労支援に特化した事業所として、就労移行支援事業、就労継続支援A型事業、就労継続支援B型事業及び就労定着支援事業を実施し、利用者が地域において自立した生活を送るための支援や一般就労に必要なスキル習得への支援を行い利用者の確保に努力した。

生産活動は、農産・請負班、清掃・請負班、リサイクル班及び給食班の4班体制で実施した。農産・請負班の水稲事業では、播種から刈取作業まで順調に進捗し、収穫量は約34トン（約578俵）（目標48トン）となり、昨年の45トン（約757俵）を下回った。このうち、主力品種である「まっしぐら」は、10a当たり（1,000㎡・1反）7俵を収穫した。リサイクル班は、農産・請負班と連携して薪の生産に取り組んだ。清掃・請負班においても、事業所清掃終了後はほたて養殖用資材加工のほか薪生産に取り組んだ。給食班は、利用者及び職員（希望者のみ）に対する昼食提供に取り組んだ。

就労支援事業収入全体では、新規生産活動の給食班を含め、約800万円の収入増を達成し、利用者の工賃を増額することができた。

地域貢献等については、コロナ感染防止策のため近隣住民との交流活動イベントは実施することができなかったが、平内町の地場産業に貢献する作業を生産活動に組み入れ地域と一体となり事業を展開した。

定員に対する利用率は、就労継続支援A型事業において74%だったものの、その他の事業利用者数が増加し、全体で96%（目標90%以上）となった。

令和4年度新規利用者の獲得は、実習等の積極的な受入れにより1人（目標2人）となった。

薪販売総額は、2,325,990円となり前年（1,292,800円）比5%増の目標を上回った。

事業所の収支差額は、一般就労決定者数に対して、新規利用契約者数が伸びず、総収入額の1割以上の目標を達成できなかった。

2 重点事項の実施状況

(1) 利用者の獲得

① PR動画の作成

コロナ感染防止対策により事業所見学ができない実情を踏まえ、事業所のPR動画を作成し、特別支援学校や相談支援事業所にPRした。

② 利用者「女子会」の実施

女子利用者獲得を目的として、保護者等のボランティアも活用し、女子利用者の視点の「創造力を発揮する時間」を設置した。年間合計24回開催、延べ129人の女子利用者が参加し、年度内に女子利用者1人（A型）を獲得した。

(2) 生産活動用設備の増備

米刈取用コンバインの老朽化に伴い、新規リースにより更新した。また、薪伐採場所の林道設置及び水稲作付面積の拡大を目的として、バックホーン（ミニショベル）を購入した。

(3) スポーツ活動用設備の増設

スポーツシーンに触れ合う機会が激減したため、スポーツ用具を事業所内に常設して、昼休み等の空き時間で気軽にプレイできる環境を整備した。

(4) 就労移行支援事業強化のための基盤づくり

一般就労を目指す利用者に利用してもらうため、就業・生活支援センター等との連携を密にし、4人の利用者を一般就労させた。

(5) すこやか生活塾の開設

障害の有無を問わず、学習に励みたい方に対して、事業所の既存の機能を活用した「居場所の提供」と「将来の目標達成のための後方支援」を行った。利用実員2人、延利用日数142日の実績があった。

3 職員の状況

職名	所長	主任 支援員	副主任 支援員	支援員	事務員	調理員	労務員	運転員	合計 (人)
職員数	(1)	1	1	5	2	1	3	4	17

※所長は事務局長が兼務しているため、合計には含んでいない。

4 利用者の状況

区分	就労移行 支援事業	就労継続支援 B型事業	就労継続支援 A型事業	合計 (人)	就労定着 支援事業(人)
定員	6	15	10	31	
年度当初 利用者数	7 (男7・女0)	18 (男13・女5)	8 (男7・女1)	33 (男27・女6)	3 (男3・女0)
年度末 利用者数	7 (男6・女1)	21 (男17・女4)	9 (男7・女2)	37 (男30・女7)	2 (男2・女0)

※平均年齢(令和3年度末) = 全体: 37歳(男性: 36歳・女性: 45歳)

5 事業の実施状況

(1) 事業概要

① 就労移行支援事業

一般就労を希望する方に、職場実習や一定期間の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行った。

期間	人数	実習場所
7/12~7/14	1	イオン東北(株) MaxValu 平内店
8/20~8/25	2	JR盛岡鉄道サービス(株) 新幹線青森営業所リサイクル場
9/28	3	平内いきいき健康館よごしやま温泉
11/24~11/26	6	大西商店
11/29~12/1	6	大西商店
12/6~12/8	5	大西商店
11/29~12/1	4	大西商店
2/1~2/4	3	ウッドラック
2/7~2/10	6	ウッドラック
2/15~2/18	6	ウッドラック
2/22~2/25	6	ウッドラック

② 就労継続支援A型事業

一般企業等での就労が困難な方に、雇用して就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

③ 就労継続支援B型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

(2) 生産活動の売上状況 (円)

班名	令和3年度(A)	令和2年度(B)	前年比(A-B)
農産・請負班	13,251,938	11,330,378	1,921,560
清掃・請負班	753,600	753,600	0
リサイクル班	11,007,666	7,085,681	3,921,985
給食班	2,249,000	0	2,249,000
計	27,262,204	19,169,659	8,092,545

(3) 工賃及び賃金の支給状況

区分	就労移行支援		就労継続支援B型		就労継続支援A型	
	延人数(人)	支給金額(円)	延人数(人)	支給金額(円)	延人数(人)	支給金額(円)
年間合計	87	1,562,330	228	4,172,530	103	8,570,716
1人当たり月平均額	7.3	17,957	19.0	18,300	8.6	83,210

注：月途中の契約開始及び解除利用者は除外している。

(4) 就職に向けた取組

月日	人数	見学先
5/27	2	みちのく銀行 Pastel
6/14	2	(株) ヤマイシ
7/16	3	JR 盛岡鉄道サービス (株) 新幹線青森営業所リサイクル場
7/21	1	(株) 青森銀行
7/30	1	秀英商事 (株)
12/22	1	(株) 青森銀行

(5) 余暇支援等 (行事関係)

月	レクリエーション (土日開所)	地域交流活動等
4月	・保護者懇談会 (17日)	・茂浦地区清掃 (17日)
5月	・夜越山クロスカントリー (3日) ・春のバーベキュー第1弾 (8日) ・浅虫水族館見学 (15日) ・春の大掃除 (22日) ・春のバーベキュー第2弾 (29日)	・だいすき海岸清掃奉仕 (1日)
6月		
7月	・スポーツ吹き矢体験 (3日) ・地引網体験 (10日) ・夏のバーベキュー第1弾 (24日)	・夏泊ほたて海道トンネルマラソン施設開放 (18日)
8月	・調理体験 (パフェ作り) 及び障害者スポーツ練習 (7日) ・夏のバーベキュー第2弾 (21日) ・調理体験 (お好み焼き・焼きそば作り) 及びバスケットボール体験 (29日)	・だいすき海岸清掃奉仕 (1日)

9月	・ソフトダーツ体験（11日） ・調理体験（チーズフォンデュ作り）及び映画鑑賞（25日）	
10月	・調理体験（ピザトースト作り）及びコロコロドッチボール体験（16日） ・秋のバーベキュー（30日）	
11月	・ジャベリックスロー体験及びアクセサリ制作体験（13日） ・調理体験（お好み焼き作り）及びフライングディスク体験（27日）	・だいすき海岸清掃奉仕（1日）
12月	・調理体験（ホットケーキ作り）及び卓球体験（4日） ・利用者忘年会（11日）	
1月	・AWボウリング大会（8日） ・調理体験（いちご飴作り）及び映画鑑賞（9日） ・調理体験（ハンバーガー作り）及びドッチボール体験（22日） ・調理体験（クレープ作り）及びサッカー体験（23日）	・茂浦青年団権現舞訪問（17日）
2月	・ソフトバレー体験（5日） ・調理体験（餃子作り）及びバスケットボール体験（19日）	
3月	・利用者歓送迎会（26日）	

(6) 送迎体制

コース名	行き先
平内町（野辺地）	小湊、清水川、野辺地
青森市内（東方面）	小柳、戸山、諏訪沢
青森市内（山通り）	観光通り、筒井、戸山
青森市内（浜通り）	青森駅、浪打、八重田

(7) ボランティアの受入れ

利用者女子会において、すこやか生活塾の利用者をボランティアとして年間延べ12人受け入れた。

(8) 苦情解決事業等

毎月1回、第三者委員（4人）と面談する機会を設けたほか、随時相談を受ける体制を整備した。なお、実施については虐待防止対応規程と連動し対応した。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計（件）
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

(9) 健康管理

次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒を利用者に励行し、また、感染症の流行期間においては、利用者に対して感染症の予防方法など説明するなどして注意を促し、感染の防止に努めた。

新型コロナウイルス蔓延防止対策として、厚生労働省の通知に基づき、毎朝自宅において検温し、発熱していないことを確認してから送迎車両に乗ることを徹底した。

事業所では外部の訪問者は玄関までとし、事業所内はすべて職員が中継して対応した。

(10) 安全管理・防災対策

火災による避難訓練を年2回（8月17日、1月31日）、不審者対応訓練を年1回（1月31日）、津波想定避難訓練を年1回（3月24日）実施し、利用者の安全確保に努めた。また、3月24日、災害備蓄食を利用者本人が実際に準備して喫食する訓練を実施した。

(11) 所内会議等

会議名	回数
質の向上推進会議	年6回
給食会議	毎月1回
事業所会議	毎月1回

(12) 職員研修関係

事業所内での勉強会や法人内他部署での実地研修をはじめ、県内で実施する各種研修等に職員を派遣した。

また、支援技術や生産技術の向上を図るための専門的な研修へも積極的に派遣した。

(13) 広報関係

- ① パンフレット・事業概要作成配布
- ② 広報紙「でんでん」年3回発行配布
- ③ ホームページ開設
- ④ 見学者（養護学校教諭・生徒）の積極的な受入れ

(14) 放課後子ども教室（平内町からの受託事業）の運営状況

- ① 営業日 毎週月～金曜日
- ② 営業時間 14:30～18:00（ただし、小学校長期休業期間は8:00～17:00）
- ③ 利用契約者 26人
- ④ 協働活動支援員 5人
- ⑤ 地域コーディネーター 1人

【令和3年度の実績】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働日数 (A)	20	18	22	19	20	20	21	19	20	17	18	22	236
	21	18	21	21	16	18	19	17	20	17	15	23	226
延利用者数 (B)	120	84	101	142	213	104	99	84	114	144	45	112	1,362
	140	71	65	119	112	48	53	50	79	74	36	69	916
1日当たりの 平均利用者数 (B÷A)	6.0	4.7	4.6	7.5	10.7	5.2	4.7	4.4	5.7	8.5	2.5	5.1	5.8
	6.7	3.9	3.1	5.7	7.0	2.7	2.8	2.9	4.0	4.4	2.4	3.0	4.1

※上段：当年度、下段：前年度

第9 特別養護老人ホームすこやか苑

1 概況

すこやか苑の運営にあたっては、「基本理念」と「基本方針」の実現に向けて、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、利用者の能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援した。

利用者の権利擁護の推進にあたっては、「虐待の芽チェックリスト」で年2回自己評価し、集計・分析による課題の把握を行った。

令和3年度も、コロナ禍のため、面会については制限を設けたが、家族との結びつきを重視し、感染状況を踏まえながら、スクリーン越しや窓越し面会、タブレットによるリモート面会と柔軟に対応した。また、苦情相談受付や運営推進会議においても、ICT機器（タブレット端末）を使用し、利用者参加を推進した。その他、地域貢献活動や外部関係者（ボランティア含む）を招いての行事や各活動は、感染症対策により実施を控えた。

経営面では、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護で目標としていた、平均利用者数28.0人を0.1上回り28.1人となった。稼働率は平均96.7%とほぼ満床を維持することができた。短期入所生活介護では平均利用者数8.5人を目指し、第1四半期では9.0人を維持したが、体調不良に伴う入院から退所のケースが増加したこともあり、0.6下回る7.9人となった。稼働率は平均79.0%に止まった。

居宅介護支援事業者及び保健医療関係機関等との連携を強化し、新規利用申込者の獲得と入所待機者数の充実を図った。

2 重点事項の実施状況

(1) ユニットケアの理念に基づいた個別支援の充実

コロナ禍の制約がある中で、全体行事及びユニット行事を充実させることで、選択肢の拡充を図り、入居者が少しでも心身を活性化し、生きる意欲につながるよう取り組んだ。毎年恒例となっている夏まつりや新年会のほか、新たにミニ運動会や文化祭を開催した。年度末には、おもひで上映会をとおして、1年間を振り返る時間を持つことができた。

入居者の心身の状況、要望に対応していくため、本人を交えたサービス担当者会議を開催し、施設サービス計画の見直しを6か月から3か月に短縮した。

(2) 医療的ケアの充実

年間職員研修計画に基づき、定期的に医療的研修会を開催した。また、看取り介護実施委員会では、看取り対象となった2ケースについて、振り返りを行い、改善点を検討した。

認定特定行為業務従事者については、新たに2人の介護職員が資格を取得し、有資格者は6人となった。事業者登録については、令和4年4月1日開始予定で登録済みである。

(3) 職員の人材確保と定着

令和3年度の採用者は8人（正職員2人、準職員3人、非常勤職員3人）、離職者は、6人（準職員4人・非常勤職員2人）だった。

新採用者及び転入職員には、すこやか苑独自の「新任職員研修プログラム」に沿って研修を実施し、また、個々の能力に見合った期間でマンツーマン指導を実施したが人材の定着には至らなかった。

(4) 利用者の確保と経営改善

令和4年3月末時点で入所申込者数は46人となった。空床期間の短縮化を目標に、居宅介護支援事業者及び保健医療関係機関等と連携の強化を図った結果、地域密着型入所者生活介護では、前年度比で125%の収入増となった。短期入所生活介護では、目標数値を下回る結果となったが、前年度比で119%の収入増となった。

経営改善については、他地域密着型ユニット施設を訪問し、人員配置や事業内容について比較し、リースや業務委託の見直しを視野に入れて検討したが、年度内で根本的な見直し、改善には至らなかった。

(5) 職場環境の改善

令和2年度に立ち上げた「ノーリフティングケア推進委員会」を継続し、介護職員の身体的負担の軽減（腰痛予防）と業務の効率化のために、ノーリフティングケアの推進と介護機器の導入を検討した。

2年目となる令和3年度は、腰痛予防対策・実施に重点を置き、①腰痛調査、②職場環境調査とその改善に取り組んだ。結果として、オムツ補充や排泄介助の動線が見直され、オムツ基地の設置、ユニットケアポーター（オムツカート）の導入によって腰痛予防に効果がみられた。介護機器の導入は実現できなかったが、スライディングボードや移乗用介助ベルト等の福祉用具を導入することができた。

I C T技術を活用した多職種連携については、インカムや現場でのタブレット活用に向けて検討中である。また、令和4年度からは、夜間オンコール体制の強化を図るために、スマートフォンを3台導入し、リモートで確認や対応ができる環境を整えることとした。

3 職員の状況

職名	施設長	医師	生活支援課長 (生活相談員)	看護職員	介護職員	介護支援 専門員
人数	1	1(非常勤)	1	3	22 【24】※1	1
職名	栄養士	機能訓練 指導員	事務員	専任当直員		計
人数	1	1	2	3		36

【備考】職員全般は、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護の職員兼務。
※管理者・介護支援専門員は介護職員兼務のため【24】に含む。

4 入退所状況

入所		短期入所・介護予防短期入所	
定員	29人	定員	10人
令和3年度内延入所者数	6人	令和3年度内延利用者数	15人
令和3年度内退所者数	7人	令和3年度内延利用件数	2,885件
令和3年度末現在の入所者数	28人		

5 事業概要

I 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

(1) 概況

ユニットケアの理念に基づいた個別支援に重点を置き、入居前と入居後の生活が連

続したものになるよう、利用者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重しながら各ユニットにおいて相互に社会的関係を築き自律的な日常生活を営むことができるよう支援した。

令和3年度の入退居状況については、入居が6人、退居が7人という状況であった。平均介護度は4.1、平均年齢は89.5歳だった（令和3年度末時点）。

稼働率は、平均96.7%で満床に近い状態を維持し、目標を上回る結果となったが、第4四半期においては、長期入院があり稼働率はやや低下した。

在宅復帰1人に対しては、住宅改修期間の受入先として短期入所空床型を提供し、併設する短期入所の稼働率向上に努めた。

【入退居内訳と稼働率】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居(人)	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1	6
退居(人)	0	0	0	1	0	2	1	0	1	0	1	1	7
稼働率(%)	100	99.4	95.8	95.3	97.9	95.8	97.2	99.8	97.2	96.1	93.7	93.1	96.7

(2) 定員

29人（10人×2ユニット、9人×1ユニット）

II 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

(1) 概況

居宅の要介護者等に、利用者の自律生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中で生活できるユニットケアを提供するとともに、その家族の身体的、精神的負担を軽減できるようサービスを提供した。

短期入所生活介護においては、前年度同様、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、受入れや利用方法に制限を設けた。

令和3年度の新規利用者は7人、平均介護度は2.8、平均年齢は89.8歳だった（令和3年度末時点）。

稼働率は、平均79.0%で目標を下回る結果となったが、新型コロナウイルス感染症対策を継続する中で、居宅介護支援事業者及び保健医療関係機関等と連携しながら、新規利用者の獲得と継続性のある利用に努めた。

【入退所内訳と稼働率】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居(人)	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	7
退居(人)	0	0	0	1	0	2	1	0	0	1	0	1	6
稼働率(%)	90.0	90.0	90.0	91.2	80.0	73.0	61.6	62.0	72.2	78.0	77.5	82.5	79.0

(2) 定員

10人（10人×1ユニット）

※上記ほか、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

6 事業の実施状況

(1) 年間行事

名称	実施時期等	参加者数	備考
観桜会	4/21	36人	苑敷地内の桜を鑑賞し、1Fホールでお茶会を行った

ドライブ外出①	5/17、18	21人	平和公園、合浦公園、浜館公園の散策を行った
すこやかカフェ	6/2	34人	和・洋菓子や飲物を注文してもらいカフェを演出した
ドライブ外出②	6/21、22	17人	合浦公園、平和公園、八甲田丸にて散策を行った
ドライブ外出③	7/20	2人	近隣のドライブと浜館公園の散策を行った
ねぶた観覧	8/2	35人	安生園・すこやか苑の敷地内でねぶた運行を観覧した
夏祭り・居酒屋	8/21	35人	夏に因んだアトラクションや飲食を提供し、季節を感じてもらった
敬老会	9/22	33人	職員がダンスを披露した。記念撮影や記念品を贈呈し、お祝いした
ドライブ外出④	10/12	12人	モヤヒルズ、青龍寺、浜館公園の散策を行った
ミニ運動会	10/20	27人	ユニット対抗でボーリングや玉入れ等を競い合った
やきいも会	11/17	32人	やきいもの作業工程を入居者に手伝ってもらい、出来上がった焼いもをおやつで提供した
文化祭	11/24	34人	職員、入居者による芸能発表や書道や華道の作品展示、お茶会を開催した
新年会	1/12	35人	職員による余興を披露し、獅子舞やおみくじで新年を祝った
節分会	2/2	32人	職員が扮した赤・青鬼を退治して福の神（おかめ）を呼び入れた
おもひで上映会	3/23	35人	一年間の活動をスクリーンで上映し、振り返った
ユニット内行事：母の日会、父の日会、七夕会、おやつ会、十五夜、ハロウィーンパーティー、クリスマス会、ひな祭り等を各ユニットで開催した。その他、年2回大掃除を実施した。			

(2) クラブ活動

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
書道クラブ	月1回	延100人	4/21、5/19、6/16、7/21、8/18 9/15、10/20、11/10、12/8、1/5 2/16、3/16
創作クラブ	年3回	延98人	6/9、9/29、2/9
音楽体操クラブ	年3回	延66人	4/28、8/4、12/22

(3) 健康管理

内 容	実施時期等	対象者	備 考
バイタルチェック	入浴日 ほか随時	全利用者	体温・血圧・SPO2・一般状態の観察等
体重測定	毎月	全利用者	
配置医診察	毎週木曜日	全利用者	利用者の診察・薬の処方・検査や通院等の指示等

通院・往診	随時	通院が必要な利用者	(通院)			
			泌尿器科	35人	内科	1人
			整形外科	1人	精神科	14人
			皮膚科	3人	神経内科	0人
			外科	7人	認知症外来	4人
			耳鼻科	0人	循環器内科	4人
			歯科	0人	救命救急	6人
			(往診) 歯科1人 ※延人数、短期入所利用者除く			
口腔機能維持管理指導	月1回	看護 介護職員	歯科医・歯科衛生士による助言指導			
機能訓練	週2回程度	全利用者	機能訓練計画書による機能訓練 ※短期入所利用者除く			
訪問理美容	第一・第三水曜日ほか	121人 ※延人数	4月10人 8月7人 12月11人	5月7人 9月2人 1月15人	6月10人 10月12人 2月11人	7月8人 11月13人 3月15人

(4) ボランティアの受入れ

新型コロナウイルス蔓延防止対策として、入居者と直接接触する活動は中止とした。

(5) 安全・防火管理

防災訓練（避難訓練）のほか、消防機器の法定点検・自主点検を実施した。

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
防災訓練（夜間火災想定）	5/27	53人	職員25人、利用者28人
防災訓練（水害想定）	8/11	39人	職員28人、利用者11人
防災訓練（夜間火災想定）	10/27	50人	職員24人、利用者26人

(6) 職員研修

外部研修や法人内研修へ職員を派遣したほか、苑内で次の研修会を実施した。

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
新任職員研修会	4/1～2、 4/5、6/17、 6/22～24、 10/1、10/5、 10/7～8	計9人	高齢者施設としての基本的知識として、施設理念・事業計画、ユニットケア・介護保険制度、高齢者虐待防止・身体拘束廃止・リスクマネジメント、移乗技術、高齢者の疾病と緊急対応、防災対応について
救命救急研修	4/28、11/17	計22人	急変・緊急時の対応方法、観察項目、報告手順など
感染症対策研修	5/12、10/13	計22人	食中毒や感染症予防策、嘔吐時処理手順、新型コロナウイルスについて
高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	6/23、1/26	計25人	認定看護師から認知症理解について、社会福祉士から高齢者虐待防止についての指導
リスクマネジメント研修	7/14、12/15	計26人	ヒヤリハットの重要性や再発防止の取組、KYTトレーニングの実施
口腔ケアに関する研修	8/25	計11人	歯科衛生士から、高齢者の口腔ケアについて指導
看取りケア研修	9/29	計13人	ACPガイドラインの確認のほか、演習を通じた死生観についての理解
高齢者のスキンケア	3/9	計16人	高齢者のスキンケアについて、外部研修の伝達研修

(7) 会議・各種委員会等

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
全体会議	年 12 回	各回 約 15 人	施設長からの指示事項ほか、協議 伝達等
ユニットリーダー会議	年 12 回	各回 5 人	ユニットリーダーを中心にユニッ ト運営について協議
ユニット会議	毎月 1 回 ※ユニット ごとに開催	各回 約 5、6 人	各ユニット内の運営やケアについ て協議
給食会議	年 12 回	各回 7 人	嗜好に合わせた献立、味付け、調 理方法（食形態）の検討
サービス担当者会議	入所 113 回 短期入所 14 回	各回 約 7 人	施設サービス計画や短期入所生活 介護計画書作成など介護方針の協 議決定
運営推進会議	年 6 回	各回 6 人	施設運営の現状報告、課題等へ対 する助言等（利用者はリモート形 式で参加した）
苦情解決協議会	年 4 回	6 人	各種苦情解決へ向けての協議
苦情解決第三者委員相談日	年 10 回	延 37 人	第三者委員が輪番制で訪問し、苦 情要望の聞き取りをリモート形式 で実施
入所判定会議	年 7 回	各回 6 人	入居者の決定に当たり、決定過程 の公平性・透明性を確保
リスクマネジメント・感 染症対策委員会	年 12 回	各回 約 10 人	月ごとの事故分析・対策検討 食中毒・インフルエンザ・新型コ ロナウイルスなど感染症対策につ いて協議
虐待防止・身体拘束廃止 委員会	年 4 回	各回 約 6 人	虐待が疑われる案件や身体拘束が 疑われる案件等について協議
褥瘡・排泄ケア委員会	年 12 回	各回 約 6 人	褥瘡予防改善に向けた検討 排泄ケアについての問題点を検討
ノーリフティングケア推 進委員会	年 6 回	各回 約 5 人	介護機器やノーリフティングケア の導入に向け検討及び腰痛調査、 職場環境調査の実施
看取り介護実施委員会	年 11 回	各回 約 10 人	看取り介護の振り返りと指針やマ ニュアルの見直し
研修委員会	年 12 回	各回 約 6 人	内部研修・研究発表に関する企 画・実施
広報委員会	年 3 回	各回 約 5 人	広報発行に係る編集など
防災委員会	年 3 回	各回 5 人	防災マニュアルの整備や防災訓練 の企画運営など

(8) 実習の受入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
令和 3 年度東奥学園高等学 校福祉科介護実習	7/6～8/12 8/23～9/3	各回 3 人	東奥学園高等学校 3 年生介護実習
2021 年度青森明の星短期大 学介護実習	9/6～9/25	1 人	青森明の星短期大学 1 年生ⅡA 介 護実習
令和 3 年度青森県立保健大 学社会福祉基礎実習	7/7	3 人	青森県立保健大学 1 年生社会福祉 基礎実習
令和 3 年度青森県立保健大 学ソーシャルワーク実習	8/16～8/25 9/8～9/30	1 人	青森県立保健大学 3 年生ソーシャ ルワーク実習
令和 3 年度東北栄養専門学 校給食管理実習	8/2～8/6	3 人	東北栄養専門学校 3 年生給食管理 実習

第10 就労サポートセンターはくちょう

1 概況

令和3年度の運営にあたっては、理念である「地域の中で、自分らしく、生き生きとした生活を続けられるサポートをします」に基づき、就労継続支援B型事業と共同生活援助事業を一体的に運営した。特に、権利擁護の遵守、意思決定支援を最大限尊重し、利用者の思いや価値観を大切にする等、一人ひとりに寄り添った支援体制の充実に努めた。また、経営基盤の強化に向け、新規利用者の獲得に取り組み、年度内に3人の利用者と契約を締結するほか、1日の平均利用者数は19.8人といずれも前年度を上回る結果となった。

令和3年度においては、コロナ禍による感染予防として基本的な対策に加え、外出及び帰省の一部制限、行事等（開所日）の規模縮小、職員研修におけるWEBでの参加等により事業所内での感染を抑えることができた。

就労継続支援B型事業による生産活動は、清掃班と請負班の2班体制で実施した。請負班では新たに平内町から海岸漂着物梱包作業を受託したほか、市内企業からチラシの折り込み作業を受注する等、作業内容の拡充を図ることができ、前年度以上の工賃支給に繋がった。

共同生活援助事業の運営にあたっては、特別支援学校からの実習受入れを積極的に行ったほか、法人内事業所、在宅から計3人の方が入居となり年度末には満床となった。

新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた地域交流や外出、旅行は中止とし、グループホームごとに感染対策を行ったうえで、規模を縮小し食事会等に行事内容を変更して実施した。また、地域の民生委員や広報誌等を通じて事業所（グループホームを含む）の情報発信を行い、地域住民へ理解を促した。

2 重点事項の実施状況

(1) 利用者の特性に応じた支援体制の構築

障害特性に合わせた専門的知識の習得を図るため、DVDを活用した所内研修を毎月行うとともに、家族や医療機関との連携に努めた。併せて、利用者一人ひとりの特性に応じて作業内容を個別化、明確化し定期的に見直しを行った。

(2) 安定的経営基盤の構築

就労継続支援B型事業においては、生産活動及び請負作業の拡充に加え、家族との個別面談や休息時間の充実等（スポーツ活動）を図ったことにより、年間利用率95%の目標値に対し98.5%の利用率となった。併せて、平均工賃月額についても令和2年度を上回る15,066円を支給することができた。

共同生活援助事業においては、特別支援学校からの実習受入れを積極的に行った結果、卒業生2人の獲得となり、1人はGHへ入居し、残る1人は法人内入所施設へ入所となった。また、在宅から1人、法人内事業所から1人の計3人が年度内に入居となり、1人の方が退去（法人内事業所へ移行）したことで年度末の入居者は定員の19人となった。

(3) 共同生活援助事業における安定的運営体制の整備

老朽化が著しく修繕等が必要なグループホームについては、所有者への情報提供を行うとともに、平内町内で新たな物件として見込める情報収集を継続して行った。

食生活の充実とサービスの質の均一化を図るため、毎月の会議で各グループホームの食事の写真を基に情報共有し、世話人に対する意識付けと献立の確認に努め、家庭

的であたかみのあるサービス提供に努めた。

(4) 社会参加の促進

新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、利用者の意向に沿った開所日を年間26回開催し、社会参加の促進に努めた。また、白鳥を守る会主催の浅所海岸清掃奉仕活動（4月、10月）や地域のイベント（フラワーロード等）、近隣保育施設との交流行事へ積極的に参加し、地域住民との交流を図った。

3 職員の状況

職名	センター長	副主任 支援員	支援員	事務員	調理員	世話人	合計 (人)
職員数	1	1	7	1	2	7	19

4 利用者の状況

区分	就労継続支援B型事業	共同生活援助事業	備考
定員	20	19	
年度当初 利用者数	24 (男17、女7)	17 (男11、女6)	
年度末 利用者数	25 (男18、女7)	19 (男13、女6)	就労B：契約3・解除2 GH：契約3・解除1
平均年齢 (令和3年度末)	39歳 (男：42歳、女32歳)	48歳 (男48歳、女47歳)	

5 事業の実施状況

(1) 実施事業

① 就労継続支援B型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

② 共同生活援助事業

地域で生活を営む利用者に、共同生活を営むための相談、日常生活上の援助、他の共同生活援助への移行に向けた支援を行った。

(2) 生産活動の売上状況

班名	金額(円)	主な作業内容
清掃班	2,973,264	近隣福祉施設、公衆トイレ及び当事業所の一般清掃
請負班	2,880,087	漁業資材加工、連携商品製造、企業からの受注作業、除雪等
計	5,853,351	

(3) 工賃の支給状況

区分	支給計画(円)	支給実績(円)	備考
1人当たり 平均月額	13,718	15,066	平均月額は、時間給をベースに算出（総支給額÷支払い対象者）※工賃には一時金（年2回）を含む

(4) 利用者の特性に応じた支援等

多様化する個別のニーズに対し、適切なサービスが提供できるよう施設外の研修へ積極的に参加するとともに、DVDやオンライン研修、内部研修を充実させ、障害特性の理解とサービスの質の向上に努めた。

(5) 余暇支援等

① 土日開所日 (26回)

月	内 容 (就労継続支援B型)	内容 (共同生活援助)
4月	浅所海岸清掃奉仕活動 (17日) ※平内町白鳥を守る会主催	
5月	所内行事 夏泊半島ドライブ (5日) 所内行事 ホットドック作り (8日) 所内行事 スポーツで汗を流そう (15日) 所内行事 フラワーロードボランティア (29日)	花見会 (3日)
6月		
7月	ワクチン予防接種 1回目(10日) 所内行事 BBQ肉祭り! (17日) ワクチン予防接種 2回目(31日)	
8月	所内行事 かき氷コンテスト (7日) 所内行事 盆踊り大会(21日) 所内行事 スポーツ大会(28日)	利用者食事会 (13日)
9月	所内行事 デザート作り (11日) 所内行事 ゲーム&DVD (25日)	
10月	浅所海岸清掃奉仕活動 (9日) ※平内町白鳥を守る会主催 所内行事 キーホルダー作り (23日)	
11月	所内行事 スイーツ作り(6日) 所内行事 テレビゲームと写真スライドショー (20日)	生協訪問販売 (30日)
12月	所内行事 忘年会 (11日) 所内行事 Xmas飾り (リース) 作り(18日) 所内行事 Xmas会 (25日)	クリスマス会 (24日)
1月	所内行事 利用者新年会(15日) 所内行事 福笑い(22日) 所内行事 テレビゲーム&スライドショー (29日)	利用者新年会 (28日)
2月	ワクチン予防接種 3回目(5日) 所内行事 スイーツ作り (19日)	バレンタイン (14日)
3月	令和3年度を振り返り、「写真スライドショー」と「豪華な料理」を楽しもう (12日)	

② 事業所内での余暇支援

利用者からの要望に応え、卓球用具や野球用具を充実させたほか、ボランティアを活用した将棋対局など、余暇活動の充実と利用者の健康増進に努めた。

③ その他

共同生活援助スワンハイムが主催する利用者1泊旅行については、新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み中止とし、各グループホーム内における食事会を開催した。

(6) 食事 (昼食) 提供

希望者に対して、当事業所職員が調理する食事を提供した。なお、摂取カロリー制限を希望する方には希望するカロリーで食事を提供した。

また、毎月開催する給食会議において、利用者からの嗜好・要望を伺った内容を翌月の献立に反映するとともに、なつどまり管理栄養士の監修を受け食事を提供した。

(7) 送迎体制

送迎車両4台体制で利用者の送迎を行った。

コース名	行き先
Aコース	小湊、東滝、東和
Bコース	内童子、小湊
Cコース	小豆沢、小湊、盛田
Dコース	浜子、清水川、東北町

(8) 実習生等の受入れ

区分	受入期間	人数	学校等
実習	10月12日～10月14日（3日間） ※新型コロナウイルス感染状況に配慮しながら短期間での実施となった	1	青森県立七戸養護学校

(9) 苦情解決事業及び虐待防止対応

毎月1回、第三者委員と面談する機会を設けたほか、随時相談を受けることができる体制であることを説明して利用を促した。なお、実施にあたっては、虐待防止対応規程と連動し対応した。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

(10) 健康管理

利用者の健康状態の把握に努め、疾病の早期発見に努めた。

新型コロナウイルス感染症対策として、家族と情報共有する目的で「行動履歴帳」の協力を依頼し、罹患者の早期発見、事業所内に感染を持ち込まないよう努めた。また、利用者に対し感染症に対する意識付けを図るため、感染症委員会主催の学習会を開催した。

(11) 安全管理・防災対策

年2回避難訓練及び消火訓練を実施したほか、風水害や湾内の津波を想定した避難訓練、地域の指定避難場所の確認を実施し、非常時の対応に備えた。

事業所内外の事故を未然に防ぐため、リスクマネジメント委員会を計画的に行い再発防止に努めた。

また、暴風警報時及び大雪警報時には繰上送迎を実施し、安全に帰宅できる対策を実施した。

① 避難訓練実施状況

	就労サポートセンター はくちょう	グループホームスワンハイム		
		第1	第2	第3
第1回	7月21日	7月21日		
第2回	11月25日	12月8日		

② その他の訓練実施状況

風水害を想定した地域指定避難場所までの移動訓練	1月6日、7日
不審者対応訓練	12月16日
防災に関する勉強会	12月28日

(12) 地域貢献・地域交流

① 平内町白鳥を守る会主催の浅所海岸清掃奉仕活動（4月、10月）に延べ32人の利用者及び職員が参加し、地域貢献と地域住民との交流を図った。冬期間においては、浅所海岸の除雪作業を行った。

- ② ハクチョウのまち再生事業（平内町教育委員会）実行委員会にオブザーバーとして参画した。
- ③ 近隣保育園との交流については、年4回予定していたが、新型コロナウイルス感染症の動向に配慮しながら年2回交流行事に参加した。また、感染リスクの状況をみながら、グラウンドの開放と事業所製品の贈呈を通して、関係の維持に努めた。
- ④ 地域貢献の一環として、「利用者負担金等軽減制度」を設け、地域生活を希望する障害者の社会参加を促した。（令和3年度利用者1人）

(13) ボランティアの受入れ

受入人数	延べ日数	備考
1人	24日	余暇活動の支援（将棋相手）

(14) 所内会議

会議名	回数	備考
臨時全体会議	年1回	
事業調整会議	年3回	事業計画等について協議
就労・生産支援会議	毎月1回	利用者支援及び生産活動について協議
GH（世話人）会議	毎月1回	共同生活を営むための相談、日常生活上の援助について協議
給食会議（利用者）	毎月1回	嗜好に合わせた献立、食生活における注意点の協議伝達
事業所会議	毎月1回	管理者からの指示事項ほか、協議伝達等
モニタリング調整会議	年2回	利用者の生活支援、作業支援について、個別支援計画を策定

(15) 職員研修関係

人材育成実施要綱及び研修計画に基づいた施設内外の各種研修へ積極的に参加するとともに、感染症対策としてオンライン研修の充実を図り、専門的知識の習得と質の高いサービス提供に向け、職員の資質向上に努めた。

(16) 広報関係

事業所リーフレット及び広報紙（年3回発行）を作成し、関係機関及び団体等に配布した。また、ホームページ等により事業所のPRに努めた。